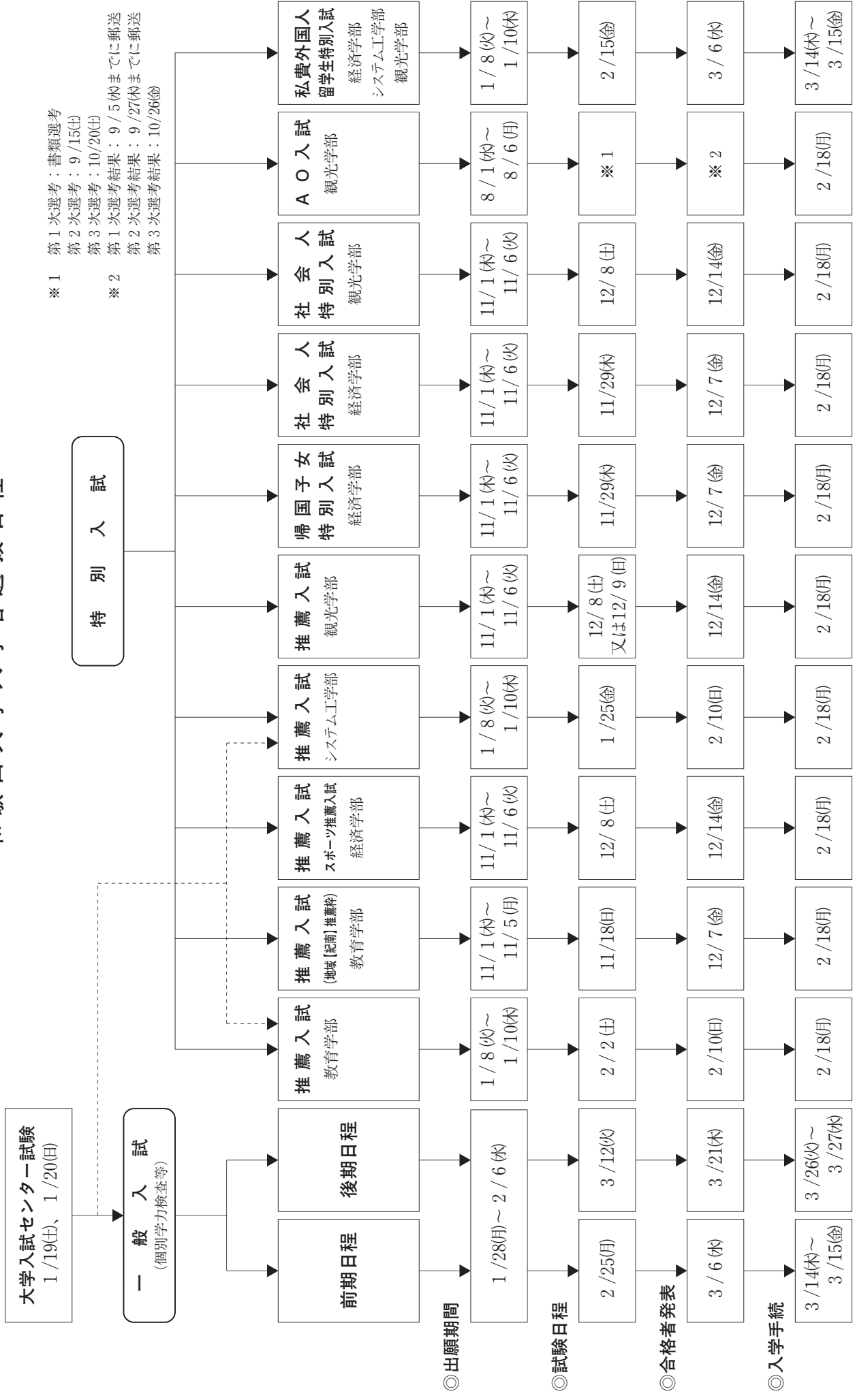


和歌山大学入学選抜日程



目 次

和歌山大学入学者選抜日程

入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー).....	1
入学定員及び募集人員.....	8
一般入試.....	10
出願資格.....	10
出願上の注意事項.....	10
受験上及び修学上の配慮を必要とする者の事前相談.....	11
実施方式及び併願について.....	12
入学者選抜方法等.....	12
入学者選抜実施教科・科目等.....	13
教育学部実技検査内容.....	20
個別学力検査等実施教科・科目の試験時間.....	22
特別入試.....	23
推薦入試(教育学部・経済学部・システム工学部・観光学部).....	23
帰国子女特別入試(経済学部).....	32
社会人特別入試(経済学部・観光学部).....	33
AO入試(観光学部).....	35
私費外国人留学生特別入試(経済学部・システム工学部・観光学部).....	36
学生募集要項等の発表及び請求方法.....	38
学部紹介.....	41

入試に関する問合せ先(裏表紙裏面)

和歌山大学へのアクセス(裏表紙)

入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)

大学の入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)

1. 教育目的

和歌山大学は、地域における学術・文化の府として、豊かな人間性と社会性を育み、自然と調和した社会の発展に向け、修得した専門的知識や技術を通じて、未来を自らの力で切り拓き地域と世界で活躍できる人材を育成します。

2. 求める学生像

本学での学習を可能にする基礎的な知識・技能を備え、以下に示す要件のいずれかを満たし、志望学部が示す学生像に適合する人を求めます。

- (1)学問への探究心を持ち、課題解決に意欲的に取り組む人
- (2)自らの将来を見据えた明確な目的意識を持つ人
- (3)未知の事柄に積極的に挑戦する意欲のある人

教育学部 入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)

1. 教育目的

和歌山大学教育学部は、人間と教育に関する深い理解と、科学・芸術・文化に関する専門的知識に基づき、教育実践力を高めることで、次代を担う子どもたちの成長と発達を支援していくことのできる高度な資質・能力をもった教員の養成を目的とします。

この目的の実現をはかるために、初等教育コース・中等教育コース・特別支援教育コースの3つのコースを設置しており、明確なキャリアパスにより自らのめざすべき進路に応じた専門教育を受けることができます。

初等教育コースでは、児童の発達や教科のつながりなどを総合的に捉え、就学前教育との連携及び小中連携の視野を持った小学校教員の養成をめざします。子どもと教育に関する専門的な知識と技能を修得するとともに、教育に関するさまざまな科学・研究分野を学びます。さらに、学校教育の基本的課題のみならず今日の学校内外で多発する複雑で深刻な教育問題に対応できる、総合的で実践的な教育的力量を身につけます。

中等教育コースでは、教科(分野)の専門性を深めつつ、中学校・高等学校教員の養成をめざします。子どもと教育に関する専門的な知識と技能を修得するとともに、学校における各教科に関する幅広く深い知識と専門的技量を修得します。さらに、文化の継承・発展という教育の基本的課題に対応できる、総合的で実践的な教育的力量を身につけます。

特別支援教育コースでは、学習に困難のある子どもや、発達が気になる子ども、障害のある子どもなど、特別なニーズを有する子どもの教育について、専門的知識や理論を身につけながら実践的な指導能力を養い、両者のバランスに優れた教員の養成を目的とします。最新の理論の修得に加えて、在学中から実際に子どもと接する機会を多く持ち、体験を通して学ぶことを重視します。

2. 求める学生像

教育学部の求める学生像は以下のとおりです。

- (1)入学後の専門的知識と教養を学ぶ基礎となる学力・実技技能を有し、主体的・協同的に学習に取り組むことができる人
- (2)学校教育に興味を持ち、教職やそれに関わる職をめざす人
- (3)子ども・青年の成長・発達に関心を持ち、それを支援する豊かな人間性と人権意識を有する人
- (4)他者を理解し、他者と協働できるコミュニケーション能力を有する人
- (5)教育についての諸問題に関心を持ち、それらを解決するために自ら探求し、取り組もうとする意識を有する人

入学後には、教育にかかわる諸問題に一層の関心を持ち、自分自身が取得すべき教員免許状の種類やキャリアパスを考え、子ども・青年たちの成長・発達を支援する専門職として求められる資質・能力を修得することを期待します。

- ・教員免許状の取得を目的とした体系的カリキュラムを履修することで、子ども・青年たちの成長・発達を支援する専門職にふさわしい学術的教養と教育実践に関わる専門的知識を修得すること。
- ・学校現場での実習や体験を通じて、実践的指導力を身につけること。
- ・卒業成績や専門科目において提供される能動的な学習の機会を通じて、主体的に学び続ける力や他者と協働する力、問題を解決する力など、職業人・社会人として必要となる汎用的技能や態度を身につけること。

3. 入学者選抜の基本方針

(1)一般入試〔前期日程〕では、入学後の専門的知識と教養を学ぶ基礎となる学力・実技技能を大学入試センター試験及び個別学力検査等により評価し、入学者を選抜します。

なお、大学入試センター試験に際しては、文科系・理科系・実技系に分類した配点を行い、個別学力検査等に際しては、募集区分を文科系・理科系・実技系に分類し、それぞれの区分に応じた入試を実施します。

(2)一般入試〔後期日程〕では、入学後の専門的知識と教養を学ぶ基礎となる学力を大学入試センター試験により、また、学力・豊かな人間性と人権意識・課題解決に向けて探求し取り組もうとするための力量を個別学力検査等により評価し、入学者を選抜します。

なお、大学入試センター試験に際しては、文科系・理科系に分類した配点を行い、個別学力検査等に際しては、募集区分を文科系・理科系に分類し、それぞれの区分に応じた入試を実施します。

(3)推薦入試では、学校教育に興味を持ち、教職をめざす者として出身学校長より推薦を受けた者のうち、入学後の専門的知識と教養を学ぶ基礎となる学力を大学入試センター試験により、また、豊かな人間性と人権意識・コミュニケーション能力・課題解決に向けて探求し取り組もうとするための力量を面接及び出願書類により総合的に評価し、入学者を選抜します。

なお、大学入試センター試験に際しては、初等教育コース・中等教育コースにおいて募集区分を文科系・理科系に分類した配点を行い、面接に際しては、初等教育コース・中等教育コース・特別支援教育コースに分類し、それぞれの区分に応じた入試を実施します。

(4)推薦入試〔地域（紀南）推薦枠〕では、学校教育に興味を持ち、教職をめざす者として出身学校長より推薦を受けた者のうち、入学後の専門的知識と教養を学ぶ基礎となる学力・課題解決に向けて探求し取り組もうとするための力量を小論文により、豊かな人間性と人権意識・コミュニケーション能力・課題解決に向けて探求し取り組もうとするための力量を面接並びに出願書類により総合的に評価し、入学者を選抜します。

なお、小論文に際しては、文科系・理科系に分類し、それぞれの区分に応じた入試を実施し、また、面接に際しては、初等教育コース・中等教育コースに分類し、それぞれの区分に応じた入試を実施します。

経済学部 入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)

1. 教育目的

学部の目的（教育理念）

学部は、広い視野と専門領域に応じた基礎学力及び経済社会を体系的に理解できる能力をもち、経済社会のさまざまな問題を真摯に受け止め、的確に判断し創造的・実践的に対応できる人材を育成することを目的とする。

（経済学部規則第1条の2）

学部の教育目標

和歌山大学経済学部は、和歌山高等商業学校として創設されて以来、長きにわたり社会から必要とされる人材を輩出してきたという伝統を持ちます。この伝統を大切にしながら、多様で変化の激しい予測困難な社会を体系的に理解し、刻々変化する世界経済の動向に的確に対応することができる人材を育成します。そのために、以下の知識を教授し、技能、態度・姿勢、統合的な能力・姿勢を涵養します。

〈知識〉

(1)和歌山の歴史や事情、和歌山大学の伝統も含む幅広い教養、経済学や経営学を中心とする社会科学の諸分野の基礎的・専門的知識

〈技能〉

(2)論理的思考力を中心としたコミュニケーション力、情報リテラシー、数量的スキルなどの汎用的技能

〈態度・姿勢〉

(3)個人の自立と他者との協働を図りながら、経済社会のさまざまな問題を真摯に受け止める姿勢

〈統合的な能力〉

(4)さまざまな問題の解決に向けて情報を収集し、習得した知識や修得した技能を利用した的確に判断し、創造的・実践的・主体的に行動する能力

2. 求める学生像

経済学部の求める学生像は以下のとおりです。

高等学校等の標準的なカリキュラムや課外活動、諸外国における教育制度の下での学修、高等教

育機関における学修や諸活動、並びに就業などを伴う社会的な活動などの様々な学びの機会を通して、次のような知識・技能・能力を身につけようとしてきた人を求めます。

- ・社会の複合的な課題を発見・理解するための幅広い基礎的知識
- ・認識した課題を分析・解決するための思考力
- ・課題解決の実践にあたり、多様な人々と対話するためのコミュニケーション能力

入学後には、自らがさらに努力を重ね、多くの人と関わり合いながら、経済・社会の活動にかかわる諸問題に一層の関心を持ち、これまでに身に付けた能力を磨くとともに、次のような知識・技能・能力を身につけることを期待します。

- ・経済学、経営学、会計学、情報学、法学などを中心とした専門知識
- ・専門知識を領域横断的に活用した理解力、思考力、表現力
- ・主体的に学び、考え、多様な人々と協働する能力

3. 入学者選抜の基本方針

- (1)一般入試〔前期日程〕では、高等学校等で学ぶ各教科の基本的な知識と、英語の理解力及び数学的思考力を、それぞれ大学入試センター試験と個別学力検査等により評価し、入学者を選抜します。また、商業に関する知識・技能・思考力を備えた人材を選抜するために、大学入試センター試験及び個別学力検査等において、商業関連科目の選択を認めます。
- (2)一般入試〔後期日程〕では、外国語の理解力と特定分野の知識、並びに高等学校等で培った理解力（読解力）・論理的な思考力・表現力（文章力）をそれぞれ大学入試センター試験と個別学力検査等により評価し、入学者を選抜します。大学入試センター試験の評価において、すぐれた成績を取めた科目に配慮します。理解力、論理的思考力、表現力を重視し、入学者選抜の評価に反映します。
- (3)推薦入試では、高等学校等において身につける学力のうち、基本的な知識の修得状況と学ぶ意欲、社会科学を学ぶ上で必要な理解力（読解力）・論理的な思考力・表現力（文章力）、他者との議論や協働的な活動の礎となるコミュニケーション能力を、それぞれ出願書類、小論文、及び集団討論により評価し、入学者を選抜します。
- (4)スポーツ推薦入試では、高等学校等において身につける学力のうち、社会科学を学ぶ上で必要な理解力（読解力）・論理的な思考力・表現力（文章力）を小論文により評価します。これに加えて、基本的な知識の修得状況、顕著な成績を取めたスポーツ活動において培われた主体性や多様な人々と協働する力、及びスポーツの実践、普及、振興についての関心を出願書類と面接により評価し、入学者を選抜します。
- (5)社会人特別入試では、高等学校等の卒業後の社会人経験とそこから得た知見、及び生涯にわたり学び続ける姿勢などを出願書類及び面接により評価し、入学者を選抜します。
- (6)帰国子女特別入試では、諸外国での学びと日本における学びのためになされた種々の活動を面接と出願書類により評価し、入学者を選抜します。
- (7)私費外国人留学生特別入試では、諸外国での学びを通して得た基礎的な知識と日本に留学するにあたってなされた学びの成果を日本留学試験と出願書類により評価します。あわせて日本語の運用能力を面接により評価し、入学者を選抜します。
- (8)第3年次一般編入学入試では、他大学などでの学修により身につけた経済学・経営学などに関

する知識とそれを活用する思考力・判断力・表現力、及び英語の運用能力をそれぞれ小論文と出願書類により評価します。あわせて、他者と協働・協調する力、あるいは他者をリードする力を面接により評価し、入学者を選抜します。

(9)第3年次推薦編入学入試では、他大学などでの学修により身につけた経済学・経営学などに関する知識とそれを活用する思考力・判断力・表現力、及び英語の運用能力を出願書類により評価します。あわせて、他者と協働・協調する力、あるいは他者をリードする力を面接により評価し、入学者を選抜します。

システム工学部 入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)

1. 教育目的

和歌山大学システム工学部は、広範な教養及び理工学における複数領域の分野を横断する知識を身につけ、その知識を自ら活用することにより、広い視野から時代の要請に応え、産業・社会のニーズに即応できる実践力と創造性を持ち、課題解決のできる研究者や技術者を養成します。

2. 求める学生像

システム工学部は、理工系学部教育を学ぶために必要な基礎的な学力を備え、以下に示す要件を満たす人を求めます。

- (1)理数系の基礎知識と問題解決能力を持ち、国際的なコミュニケーションに必要な英語力を有する人
- (2)論理的思考力と多面的な分析能力により、複合化された複雑な課題を解決する能力を持つ人
- (3)明確な目的意識を持ち、自らの将来を切り拓く意志を有する人

入学後には、自ら学び考える力を持ち、以下の様な観点から、学術・産業研究を含む広範な理工系分野で活躍する自律的な高度技術者を目指すことを求めます。

- ・自分自身の思い描くキャリアパスを客観的に考え、それに応じた2つのメジャーを選択すること
- ・メジャーが提供する専門知識・技能を主体的に修得し、未来の職業人としての基礎力を高めること
- ・異なる知識や技能を、断片的にではなく体系化して身につけ、複雑な課題を解決する能力へと高めること

3. 入学者選抜の基本方針

- (1)一般入試 [前期日程] では、高等学校等で学んだ各教科の基本的な知識を大学入試センター試験により、数学的思考力と英語の理解力を個別学力検査により評価し、入学者を選抜します。
- (2)一般入試 [後期日程] では、高等学校等で学んだ各教科の基本的な知識を大学入試センター試験により、システム工学を学ぶにふさわしい能力・適性を個別学力検査等により評価し、入学者を選抜します。
- (3)推薦入試では、明確な目的意識をもって入学を希望し、かつ、出身学校長より推薦を受けた者のうち、高等学校等で学んだ各教科の基本的な知識を大学入試センター試験により、目的意識

や学修意欲等を面接及び出願書類により総合的に評価し、入学者を選抜します。

(4)私費外国人留学生特別入試では、日本に留学するためになされた学びの成果を日本留学試験、出願書類、面接により評価します。あわせて、入学後の学修に必要な理解力、論理的思考力、日本語運用能力を面接により評価し、入学者を選抜します。

(5)第3年次推薦編入学入試では、高等専門学校等での学修により身につけた理工系学部に関する専門知識・技能等を面接と出願書類により評価します。あわせて、目的意識や学修意欲等を面接により評価し、入学者を選抜します。

(6)第3年次一般編入学入試では、高等専門学校等での学修により身につけた理工系学部に関する専門知識等を学力検査により評価します。あわせて、高等専門学校等での学修により身につけた理工系学部に関する専門知識・技能や目的意識、学修意欲等を面接により評価し、入学者を選抜します。

観光学部 入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)

1. 教育目的

21世紀は「観光の時代」と言われ、世界のあらゆる国・地域で最も有望な成長分野として観光が注目を集めています。わが国においても観光は戦略産業と位置づけられ、官民一体での「観光立国」実現に向けた政策や取組が加速するなか、観光産業や行政の現場と密接に連携しながら、新しい観光学の創造及び観光を支えるに相応しい豊かな教養と専門性並びにグローバル時代に対応したハイレベルな国際的・学際的視点を持つ観光人材の輩出が期待されています。

このような背景のもと、和歌山大学観光学部では「観光経営」・「地域再生」・「観光文化」という3つの基本領域(コース)の相互関係として観光学の学問体系の全体像を認識しつつ、このうちのいずれかの領域に主たる専門性(より深い教養)を発揮できる人材を養成することを目指します。

現代社会で求められる実践的な諸課題に対しては、専門性を活かして応用することができる「包括的対応力(ジェネリックスキル)」が必要です。英語による専門科目の履修機会を飛躍的に増加させることにより、異文化コミュニケーション力を高め、グローバル化した社会状況への高度な対応力を涵養することを重視します。さらに、地域の諸課題に取り組む実践型教育の機会を拡充することにより、オンサイトでの創造的実践力を身に付けることを目指します。

2. 求める学生像

観光学部では、観光についての幅広い関心を持つ以下のような人を求めます。

(1)多角的な思考力を身につけることが期待される人

- ・高等学校等で履修する科目について基本的な知識を有する。
- ・論理的に深く思考する力を有する。
- ・多面的にものごとをとらえる力を有する。

(2)柔軟な協働力を身につけることが期待される人

- ・他者の意見を尊重し受け入れる柔軟性を有する。
- ・協調性を持ち円滑なコミュニケーションを図る力を有する。

- ・規範性を持ち自己を律する力を有する。

(3)広範な理解力を身につけることが期待される人

- ・文章を読み解く力を有する。
- ・多様な文化・歴史・地理・言語への強い関心を有する。
- ・現代の社会情勢に対する強い関心を有する。

(4)高度な創造力を身につけることが期待される人

- ・自身の考えを文章としての確に表現できる力を有する。
- ・主体的かつ積極的にものごとに挑戦し持続する力を有する。
- ・新しいものごとへの好奇心・探究心を有する。

入学後には、観光にかかわる諸問題に一層の関心を持ち、これまで身に付けた能力をさらに磨くとともに、次のような知識・技能・能力を身につけることが求められます。

- ・自律的にキャリアパスを考え、それに応じたコースを選択すること
- ・各コースにおいて専門知識を身につけ、同時に多角的な思考力を身につけること
- ・実践型プログラムを通して柔軟な協働力を身につけること
- ・専門演習等の少人数科目により高度な創造力を身につけること

3. 入学者選抜の基本方針

(1)一般入試〔前期日程〕では、入学後の専門的知識と教養を学ぶ基礎となる学力を大学入試センター試験により、また、英語の理解力及び国語の論理的思考力、又は数学的思考力を個別学力検査により評価し、入学者を選抜します。

(2)一般入試〔後期日程〕では、入学後の専門的知識と教養を学ぶ基礎となる学力を大学入試センター試験により、また、理解力、論理的思考力、創造力の力量を個別学力検査等の総合問題により評価し、入学者を選抜します。

(3)AO入試では、入学後の学修に必要な理解力、論理的思考力、創造力、協働力の力量を書類審査、講義と提出書類に基づいた面接、プレゼンテーションにより多面的に評価し、観光関連産業・政策のリーダーや、観光産業を確立できうる入学者を選抜します。

(4)推薦入試では、高等学校等において身につける学力のうち、基本的な知識の修得状況及び高等学校等において意欲的に取り組んだ活動実績、資格取得等により入学後の学修に必要な学力、柔軟な協働力、さらにアドミッション・ポリシーへの適合を面接及び出願書類により総合的に評価し、入学者を選抜します。

(5)社会人特別入試では、入学後の学修に必要な理解力、論理的思考力、創造力、協働力に加え、高等学校等卒業後の社会人経験とそこから得た知見、及び生涯にわたり学び続ける姿勢などを出願書類及び面接により総合的に評価し、入学者を選抜します。

(6)私費外国人留学生特別入試では、入学後の学修に必要な理解力、論理的思考力、創造力、協働力に加え、諸外国での学びを通して得た基礎的な知識と日本に留学するにあたっての学習成果、日本語運用能力を日本留学試験、出願書類、面接により総合的に評価し、入学者を選抜します。

入学定員及び募集人員

学部	学科・課程	入学定員	募 集 人 員								
			一般入試		特 別 入 試						
			前期日程	後期日程	推薦入試	推薦入試 地域(紀南) 推薦枠	スポーツ 推薦入試	帰国子女 特別入試	社会人 特別入試	AO 入試	私 費 外 国 留 学 特 別 入 試
教育学部	学校教育教員養成課程	165	100 <small>(備考1参照)</small>	35 <small>(備考1参照)</small>	20 <small>(備考2参照)</small>	10 <small>(備考2参照)</small>	—	—	—	—	—
	小 計	165	100	35	20	10	—	—	—	—	—
経済学部	経済学科	300	180	80	30	—	4	3	3	—	若干名
	小 計	300	180	80	30	—	4	3	3	—	—
システム工学部	システム工学科	305	170	100	35	—	—	—	—	—	若干名
	小 計	305	170	100	35	—	—	—	—	—	—
観光学部	観光学科	120	55	28	25	—	—	—	2	10	若干名
	小 計	120	55	28	25	—	—	—	2	10	—
合 計		890	505	243	110	10	4	3	5	10	—

注1 特別入試の推薦入試、スポーツ推薦入試、帰国子女特別入試、社会人特別入試、AO入試の合格者が、募集人員に満たない場合には、その差を前期日程の募集人員に加えます。

注2 経済学部、システム工学部、観光学部の一般入試前期日程の募集人員には、私費外国人留学生特別入試の募集人員若干名を含みます。

〔備考〕

1 教育学部の学校教育教員養成課程の一般入試は、次のとおり募集します。

課 程	系	専 攻	募 集 人 員	
			前期日程	後期日程
学校教育教員養成課程	文科系	/	45	25
	理科系		35	10
	実技系	音楽又は美術	10	/
		保健体育	10	
計			100	35

(注)①文科系又は理科系を受験し、合格した人は、入学後に各コース（初等教育コース、中等教育コース、特別支援教育コース）への所属を決定します。

②実技系を受験し、合格した人は、入学後に各コース（初等教育コース、中等教育コース）への所属を決定します。

2 教育学部の学校教育教員養成課程の特別入試（推薦入試）は、次のとおり募集します。

選抜名称	募集区分		募集人員
推薦入試	学校教育教員養成課程	初等教育コース（文科系又は理科系）	10
		中等教育コース（文科系又は理科系）	5
		特別支援教育コース	5
推薦入試 地域（紀南）推薦枠		初等教育コース（文科系又は理科系）	5
		中等教育コース（文科系又は理科系）	5
計			30

（注）推薦入試を受験し、合格した人は、入学後、コースの変更を認めません。

3 教育学部の募集区分と入学後のコース等の対応は下表のとおりです。

〈一般入試〉

募集区分		入学後のコース等		
学校教育教員養成課程	文科系	初等教育コース	教育学、心理学、国語科教育、英語科教育、社会科教育、家庭科教育、音楽科教育、図画工作科教育、体育科教育、幼児教育	
		中等教育コース	教育学、心理学、国語科教育、英語科教育、社会科教育、家庭科教育、音楽科教育、美術科教育、保健体育科教育	
		特別支援教育コース	特別支援教育学	
	理科系	初等教育コース	教育学、心理学、算数科教育、理科教育、家庭科教育、音楽科教育、図画工作科教育、体育科教育、幼児教育	
		中等教育コース	教育学、心理学、数学科教育、科学教育、家庭科教育、音楽科教育、美術科教育、保健体育科教育	
		特別支援教育コース	特別支援教育学	
	実技系	音楽又は美術	初等教育コース	音楽科教育 図画工作科教育
			中等教育コース	音楽科教育 美術科教育
		保健体育	初等教育コース	体育科教育
中等教育コース			保健体育科教育	

（注）なお上記の欄は変更されることがあります。

〈推薦入試〉

選抜名称	募集区分	入学後の専攻	
推薦入試	学校教育教員養成課程	初等教育コース（文科系又は理科系）	文科系：教育学、心理学、国語科教育、英語科教育、社会科教育、家庭科教育、音楽科教育、図画工作科教育、体育科教育、幼児教育 理科系：教育学、心理学、算数科教育、理科教育、家庭科教育、音楽科教育、図画工作科教育、体育科教育、幼児教育
		中等教育コース（文科系又は理科系）	文科系：教育学、心理学、国語科教育、英語科教育、社会科教育、家庭科教育、音楽科教育、美術科教育、保健体育科教育
			理科系：教育学、心理学、数学科教育、科学教育、家庭科教育、音楽科教育、美術科教育、保健体育科教育
	特別支援教育コース	特別支援教育学	
地域（紀南）推薦枠	初等教育コース（文科系又は理科系）	文科系：教育学、心理学、国語科教育、英語科教育、社会科教育、家庭科教育、音楽科教育、図画工作科教育、体育科教育、幼児教育	
		理科系：教育学、心理学、算数科教育、理科教育、家庭科教育、音楽科教育、図画工作科教育、体育科教育、幼児教育	
	中等教育コース（文科系又は理科系）	文科系：教育学、心理学、国語科教育、英語科教育、社会科教育、家庭科教育、音楽科教育、美術科教育、保健体育科教育	
		理科系：教育学、心理学、数学科教育、科学教育、家庭科教育、音楽科教育、美術科教育、保健体育科教育	

（注）なお上記の欄は変更されることがあります。

一般入試

出願資格

次の各号のいずれかに該当し、かつ各学部・学科等が指定する平成31年度大学入試センター試験の受験を要する教科・科目（13～18ページ参照）を受験した者

1. 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者及び平成31年3月までに卒業見込みの者
2. 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成31年3月までに修了見込みの者
3. 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第150条第1号から第5号の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び平成31年3月31日までにこれらに該当する見込みの者

これらの者は以下のとおり。

- ①外国において学校教育における12年の課程を修了した者及び平成31年3月31日までに修了見込みの者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
 - ②文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び平成31年3月31日までに修了見込みの者
 - ③専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成31年3月31日までに修了見込みの者
 - ④文部科学大臣の指定したもの（昭和23年文部省告示第47号）
 - ⑤高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）及び平成31年3月31日までに合格見込みの者で、平成31年3月31日までに18歳に達するもの
4. 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達した者及び平成31年3月31日までに18歳に達するもの

出願上の注意事項

（注1）平成31年度大学入試センター試験で各学部・学科等が指定する教科・科目を受験していなければ、出願資格を満たしていないことになり出願できません。本学は、過年度の大学入試センター試験の成績は利用しません。

（注2）個別の入学資格審査の申請方法等

上記出願資格の4により一般入試に出願しようとする者は、個別の入学資格審査を行いますので下記を参照の上申請してください。

（申請方法・受付期間）

※事前に提出書類等の指示を行いますので、必ず各（申請書類等受付期間）開始前に下記照会先に問い合わせてください。

申請書類等の提出方法は、持参・郵送により受付します。

窓口受付時間は、9時から17時（12時から13時を除く）までとします。

郵送の場合は、封筒表に「一般入試 入学資格審査提出書類在中」と朱書きし、書留

速達郵便にて受付期間内までに和歌山大学入試課に必着するよう郵送してください。

なお、各受付期間最終日17時を超えて到着のものは受理しません。

※申請書類等受理後、別途必要書類を求める場合があります。

(申請書類等受付期間)

第1回 平成30年8月20日(月)～8月24日(金)【17時までに入試課必着】

第2回 平成31年1月21日(月)～1月23日(水)【17時までに入試課必着】

(照会先・申請書類等提出先)

〒640-8510 和歌山市栄谷930

和歌山大学入試課 TEL 073-457-7117 (直通)

(審査結果)

審査の結果、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者に対し、「和歌山大学入学資格認定書」を申請者宛に書留速達郵便にて郵送します。

受験上及び修学上の配慮を必要とする者の事前相談

障がいのある者等、受験上及び修学上の配慮を必要とする者は、事前に電話連絡した上で事前相談の申請をしてください。「点字解答」又は「代筆解答」を希望する場合は、準備に相当な期間を要しますので、なるべく早く相談してください。

日常生活において、ごく普通に使用している補聴器、松葉杖、車椅子等を使用して受験する場合も、受験上の配慮として申請してください。

また、出願受付締切後の不慮の事故等による負傷者についても、受験上及び修学上の配慮が必要となった場合は、その時点で速やかに申し出て下さい。

なお、申請期限等詳細については学生募集要項に記載します。

1. 申請方法

事前に下記の連絡・申請先まで電話連絡の上、申請書及び必要書類（診断書(写)、大学入試センター試験受験上の配慮申請時の診断書(写)、大学入試センター試験受験上の配慮事項決定通知書(写)等）を提出してください。詳細については学生募集要項に記載します。

なお、場合により、志願者又はその立場を代弁し得る出身学校等関係者と面談を行います。

2. 連絡・申請先

〒640-8510 和歌山市栄谷930番地

和歌山大学入試課

TEL 073-457-7117

実施方式及び併願について

本学の一般入試は、分離分割方式による「前期日程」と「後期日程」で実施します。

本学の前期日程に出願する場合は、他の国公立大学・学部（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く）の前期日程との併願はできません。

本学の後期日程に出願する場合は、他の国公立大学・学部（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く）の後期日程との併願はできません。

本学内の学部間又は同一学部内における前期日程と後期日程への出願、いわゆる学内併願は可能です。その場合は、前期日程と後期日程のそれぞれに出願書類を提出し、入学検定料を納めてください。

※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部は、
公立大学協会ホームページ（<http://www.kodaikyo.org>）を参照してください。

入学者選抜方法等

入学者選抜方法は、平成31年度大学入試センター試験の成績と本学が実施する個別学力検査等の結果及び調査書を総合して行います。

大学入試センター試験の利用教科・科目及び個別学力検査等の実施教科・科目等並びにこれらの配点については、**各学部の【入学者選抜実施教科・科目等】**を参照してください。

入学者選抜実施教科・科目等

教科・科目名の表記

本学における大学入試センター試験の利用教科・科目名は次のように一部略記しています。

() 内は正式名称です。

教科名	グループ	科 目 名
国 (国語)		国 (国語)
地歴 (地理歴史)		世A (世界史A)、世B (世界史B)、日A (日本史A)、 日B (日本史B)、地理A、地理B
公民		現社 (現代社会)、倫 (倫理)、政経 (政治・経済)、 倫・政経 (倫理、政治・経済)
数 (数学)	①	数I (数学I)、数I・数A (数学I・数学A)
	②	数II (数学II)、数II・数B (数学II・数学B)、簿 (簿記・会計)、 情報 (情報関係基礎)
理 (理科)	①	物基 (物理基礎)、化基 (化学基礎)、生基 (生物基礎)、 地基 (地学基礎)
	②	物 (物理)、化 (化学)、生 (生物)、地 (地学)
外 (外国語)		英 (英語)、独 (ドイツ語)、仏 (フランス語)、中 (中国語)、 韓 (韓国語)

本学における個別学力検査の教科・科目名は次のように一部略記しています。

() 内は正式名称です。

教科名	科 目 名
国 (国語)	国語総合
数 (数学)	数I (数学I)、数II (数学II)、数III (数学III)、数A (数学A)、 数B (数学B)、簿 (簿記)
外 (外国語)	コミュ英I (コミュニケーション英語I)、 コミュ英II (コミュニケーション英語II)、 コミュ英III (コミュニケーション英語III)、英表I (英語表現I)

入学者選抜実施教科・科目等

No.1

教育学部

学部・学科等名及び入学定員等		学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等				大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等							特別の入試方法等	
			教科等	科目名等	教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	総合問題	小論文		実技
教育学部 前期 165人 後期 100人 その他 30	文科系 前期 70人 後期 45人 後期 25人	前期 2月25日	国 地歴 公民	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から2 現社、倫、政経、倫・政経 教I・教A ① 教II・教B、簿、情報から1 ② 物基、化基、生基、地基から2 又は ① 物、化、生、地 から1 ② 英(リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1 【6教科8(7)科目又は5教科8(7)科目】	国語総合 コミュ英I・コミュ英II・コミュ英III・ 英表I 【2教科】	センター試験 個別学力検査 等	200 200 400	*100 *200 *400 *100 *200	200 200 200	100 200 100	200 200 200	200 200 400	200 200 200	200 200 200	1100 400 1500	推薦 追加合格	
		後期 3月12日	国 地歴 公民	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1 現社、倫、政経、倫・政経 教I・教A ① 教II・教B、簿、情報から1 ② 物、化、生、地 から2 英(リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1 【5教科7科目】	数 小論文 その他	センター試験 個別学力検査 等	200 200 200	*100 *100 *100 *100 *100	200 200 200	400 300 400	200 200 200	200 100 300	200 200 200	200 200 200	1100 400 1500		
教育学部 前期 45人 後期 35人 後期 10人	理科系	前期 2月25日	国 地歴 公民	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から2又は1 現社、倫、政経、倫・政経 教I・教A ① 教II・教B、簿、情報から1 ② 物基、化基、生基、地基から2 又は ① 物、化、生、地 から1 ② 物、化、生、地 から2 英(リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1 【5教科7科目】	数 小論文 その他	センター試験 個別学力検査 等	200 200 200	*100 *100 *100 *100 *100	200 200 200	200 200 200	200 200 200	200 200 200	200 200 200	200 200 200	900 200 1100		
		後期 3月12日	国 地歴 公民	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から2又は1 現社、倫、政経、倫・政経 教I・教A ① 教II・教B、簿、情報から1 ② 物基、化基、生基、地基から2 又は ① 物、化、生、地 から1 ② 物、化、生、地 から2 英(リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1 【5教科7科目】	数 小論文 その他	センター試験 個別学力検査 等	200 200 200	*100 *100 *100 *100 *100	200 200 200	200 200 200	200 200 200	200 200 200	200 200 200	200 200 200	200 200 200	900 200 1100	
教育学部 前期 10人	実技系 「保健体育」	前期 2月25日	国 地歴 公民	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から2又は1 現社、倫、政経、倫・政経 教I・教A ① 教II・教B、簿、情報から1 ② 物基、化基、生基、地基から2 又は ① 物、化、生、地 から1 ② 物、化、生、地 から2 英(リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1 【5教科7科目】	数 小論文 その他	センター試験 個別学力検査 等	200 200 200	*100 *100 *100 *100 *100	200 200 200	200 200 200	200 200 200	200 200 200	200 200 200	200 200 200	200 200 200	900 200 1100	
		後期 3月12日	国 地歴 公民	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から2又は1 現社、倫、政経、倫・政経 教I・教A ① 教II・教B、簿、情報から1 ② 物基、化基、生基、地基から2 又は ① 物、化、生、地 から1 ② 物、化、生、地 から2 英(リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1 【5教科7科目】	数 小論文 その他	センター試験 個別学力検査 等	200 200 200	*100 *100 *100 *100 *100	200 200 200	200 200 200	200 200 200	200 200 200	200 200 200	200 200 200	200 200 200	900 200 1100	

【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

以下の説明において、「理科」で基礎を付した科目を「理①」、基礎を付していない科目を「理②」とします。

[前期日程・後期日程共通]

1. 外国語の「英語」において、筆記試験とリスニングを課します（リスニングが免除となった場合を除き、筆記試験及びリスニングの両方を受験している場合のみ、英語を受験したことになります）。

[学校教育教員養成課程（文科系）（前期日程・後期日程）]

1. 「理科」において、「理②」2科目を受験した場合は、第1解答科目の得点を採用します。

2. 「理科」において、「理①」と「理②」の両方を受験した場合は、「理①」の2科目合計得点又は「理②」の得点のいずれか高い方の得点を採用します。

[学校教育教員養成課程（理科系）（前期日程・後期日程）]

1. 「地歴」、「公民」において、2科目を受験した場合は、第1解答科目の得点を採用します。

[学校教育教員養成課程（実技系）（前期日程）] ※

1. 「地歴」、「公民」及び「理科」において、以下のa、b、cのうち、いずれかの組合せとします。

a. 「地歴」、「公民」から2科目と「理①」から2科目の組合せ

b. 「地歴」、「公民」から2科目と「理②」から1科目の組合せ

c. 「地歴」、「公民」から1科目と「理②」から2科目の組合せ

2. 「地歴」、「公民」から2科目受験した場合で、「理科」において、「理①」と「理②」の両方を受験した場合は、「理①」の2科目合計得点又は「理②」の得点のいずれか高い方の得点を採用します。

3. 「地歴」、「公民」から2科目かつ「理②」から2科目受験した場合は、以下のa、bのうち、いずれか高得点の組合せを採用します。

a. 「地歴」、「公民」の第1解答科目と「理②」の第1解答科目の組合せ

b. 「地歴」、「公民」の第1解答科目と「理②」の2科目の組合せ

【個別学力検査等】欄

1. 国語総合は、近代以降の文章、古典（古文、漢文）から出題します。

2. 数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Aは、全範囲を出題範囲とします。数学Bは、数列、ベクトルを出題範囲とします。

3. 英語表現Ⅰは、リスニングを出題範囲から除きます。

【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄

1. 配点に*印を付してある教科は、選択教科を表します。

2. 大学入試センター試験 外国語の「英語」において、筆記試験（200点満点）とリスニング（50点満点）の合計点を0.8倍（200点満点）に圧縮したものを英語の得点とします。ただし、重度難聴者等でリスニングが免除となった場合は、筆記試験（200点満点）の得点を圧縮せず、そのまま英語の得点とします。

3. 実技系の選抜にあたっては、実技検査の得点が200点に達しない者は総合点にかかわらず不合格とします。

学部・学科等名及び入学定員等	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等							特別の入試方法等				
		教科	科目等	教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語		総合問題A	総合問題B	総合問題(後期)	配点合計
経済学部 300人 前期 180 後期 80 その他 40	経済学科 前期 2月25日 後期	国	国	国	国	総合問題A 総合問題B I } から1 総合問題B II }	センター試験 個別学力検査 等	200	100	*100	200	100	200			900	推薦 スポーツ 推薦 帰国子女 社会人 900 私費外国 人留学生
		地歴	現社、倫、政経、倫・政経から1又は2 数 I、教 I・教 Aから1 数 II、教 II・教 B、簿、情報から1 物基、化基、生基、地基から2 又は 物、化、生、地 から1 英 (リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1 【6教科8(7)科目又は5教科8(7)科目】	世 A、世 B、日 A、日 B、地理 A、地理 Bから1又は2 現社、倫、政経、倫・政経から1 数 I、教 I・教 Aから1 数 II、教 II・教 B、簿、情報から1 物基、化基、生基、地基から2 又は 物、化、生、地 から1 英 (リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1 【3教科4(3)科目又は2教科3科目】	100 *100			*100	*100	100	200	400	400	500	400		
	後期 3月12日	国	国	国	国	その他	センター試験	200	100	*100	200	100	200			600	
		地歴	現社、倫、政経、倫・政経から1 数 I、教 I・教 Aから1 数 II、教 II・教 B、簿、情報から1 物基、化基、生基、地基から2 又は 物、化、生、地 から1 英 (リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1 【3教科4(3)科目又は2教科3科目】	世 A、世 B、日 A、日 B、地理 A、地理 Bから1又は2 現社、倫、政経、倫・政経から1 数 I、教 I・教 Aから1 数 II、教 II・教 B、簿、情報から1 物基、化基、生基、地基から2 又は 物、化、生、地 から1 英 (リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1 【3教科4(3)科目又は2教科3科目】	その他 (与えられた文章を理解し、関連する資料(図・数表・英文資料等を含む)に基づいて、論理的に考え、判断し、論述する力を問う問題により、社会科学を学ぶ上で必要な知識、並びにそれを活用する能力を備えているかどうかを問う。)	個別学力検査 等		*100	*100	*100	*100	*100				1200	
		公民	英 (リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1 【6教科8(7)科目又は5教科8(7)科目】	世 A、世 B、日 A、日 B、地理 A、地理 Bから1又は2 現社、倫、政経、倫・政経から1 数 I、教 I・教 Aから1 数 II、教 II・教 B、簿、情報から1 物基、化基、生基、地基から2 又は 物、化、生、地 から1 英 (リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1 【3教科4(3)科目又は2教科3科目】	その他	計	200	100	*100	200	100	200	500	400		1800	
		外	英 (リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1 【6教科8(7)科目又は5教科8(7)科目】	世 A、世 B、日 A、日 B、地理 A、地理 Bから1又は2 現社、倫、政経、倫・政経から1 数 I、教 I・教 Aから1 数 II、教 II・教 B、簿、情報から1 物基、化基、生基、地基から2 又は 物、化、生、地 から1 英 (リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1 【3教科4(3)科目又は2教科3科目】	その他	計	*100	*100	*100	*100	*100	*100	*100	*100		1200	

【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

以下の説明において、「数学」で【教 I、教 I・教 A】を「数①」とし、【教 II、教 II・教 B、簿、情報】を「数②」とします。「理科」で基礎を付した科目を「理①」、基礎を付していない科目を「理②」とします。

【前期日程・後期日程共通】

1. 外国語の「英語」において、筆記試験とリスニングを課します (リスニングが免除となった場合を除き、筆記試験及びリスニングの両方を受験している場合のみ、英語を受験したことになります)。

【前期日程】

1. 「地歴」 【世 B、日 B、地理 B】 から必ず 1 科目以上を受験してください。
2. 「理科」において、「理②」 2 科目を受験した場合は、第 1 解答科目の得点を採用します。
3. 「理科」において、「理①」と「理②」の両方を受験した場合は、「理①」の 2 科目合計得点又は「理②」の得点のいずれか高い方の得点を採用します。

【後期日程】

指定教科・科目数を超えて受験している場合には、次の a、b、c の中から最も高得点となる組合せを採用します。

a. 「地歴」 2 科目の組合せ

b. 「地歴」 1 科目と「公民」 1 科目の組合せ

c. 以下から 2 つの組合せ

・「国」

・「地歴」

・「公民」の第 1 解答科目

・「数①」

・「数②」

・「理①」

・「理②」

・「理①」 2 科目の合計得点又は「理②」 第 1 解答科目の得点のいずれか高い方

【個別学力検査等】欄

【前期日程】

社会科学を学ぶ上で必要な知識、並びにそれを活用する能力を備えているかどうかを問います。

1. 総合問題 A は、与えられた文章 (英文を含む) を理解し、関連する資料 (図・数表・英文資料等を含む) に基づいて、論理的に考え、判断し、論述する力を問います。

2. 総合問題 B I は、数学的思考力を問います。数学 I、数学 II、数学 A、数学 B で学ぶ内容の理解を前提として出題します。

3. 総合問題 B II は、簿記の知識・技能・思考を問います。大学入試センター試験「簿記・会計」の出題範囲に相当する内容の理解を前提として出題します。

【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点】欄

1. 配点に * 印を付してある教科は、選択教科を表します。

2. 大学入試センター試験 外国語の「英語」において、筆記試験 (200 点満点) とリスニング (50 点満点) の合計点を 0.8 倍 (200 点満点) に圧縮したものを英語の得点とし、本学部が定めている配点に換算します。ただし、重度難聴者等でリスニングが免除となった場合は、筆記試験 (200 点満点) の得点を圧縮せず、そのまま英語の得点とし、本学部が定めている配点に換算します。

学部・学科等名及び入学定員等	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等							特別の入試方法等		
		教科 グループ	科目名等	教科等	科目名等	2段階選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	総合問題		小論文	実技
システム工学部 305人 前期 170 後期 100 その他 35	前期 2月25日	国	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1 現社、倫、政経、倫、政経	数 外	数 I・数II・数III・数A・数B コミュ英I・コミュ英II・コミュ英III・ 英表I	センター試験	200	*100		200	400	200				1100	推薦 私費外国 人留学生 追加合格
		地歴 公民	① ② ②				① ② ②										
	後期 3月12日	国	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1 現社、倫、政経、倫、政経	その他	その 他 「記述解答問題」 (システム工学を学ぶにふさわしい能力・ 適性等を判断する。)	センター試験	200	*100	*100	300	300	200				1100	
		地歴 公民	① ② ②				① ② ②									400	
		国				計	200	*100	*100	400	400	400				1500	
		国				計	200	*100	*100	300	300	200	400			1500	

【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

1. 外国語の「英語」において、筆記試験とリスニングを課します（リスニングが免除となった場合を除き、筆記試験及びリスニングの両方を受験している場合のみ、英語を受験したことになります）。
2. 「地歴」、「公民」において、2科目を受験した場合は、第1解答科目の得点を採用します。

【個別学力検査等】欄

1. 数学I、数学II、数学III、数学Aは、全範囲を出題範囲とします。数学Bは、数列、ベクトルを出題範囲とします。
2. 英語表現Iは、リスニングを出題範囲から除きます。

【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等】欄

1. 配点に*印を付してある教科は、選択教科を表します。
2. 大学入試センター試験 外国語の「英語」において、筆記試験（200点満点）とリスニング（50点満点）の合計点を0.8倍（200点満点）に圧縮したものを英語の得点とします。ただし、重度難聴者等でリスニングが免除となった場合は、筆記試験（200点満点）の得点を圧縮せず、そのまま英語の得点とします。

観光学部

No.4

学部・学科等名及び入学定員等	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等										特別の入試方法等		
		教科	科目等	教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	総合問題	小論文	実技		配点合計	
観光学部 120人 前期 55 後期 28 その他 37	前期 2月25日 後期 3月12日	国	世B、日B、地理Bから1又は2 } から2 現社、倫、政経、倫・政経から0又は1 } ① 教I、教I・教Aから1 ② 教II、教II・教B、簿、情報から1 ① 物基、化基、生基、地基から2 ② 物、化、生、地 から1 英(リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1 【6教科8(7)科目又は5教科8(7)科目】	国語総合 教I・教II・教A・教B } から1 コミュ英I・コミュ英II・ コミュ英III・英表I	センター試験	200	100	*100	*100	200	100	200	100	200			900	推薦 社会人 AO 私費外国 人留学生 追加合格
		外	英(リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1 【3教科4(3)科目又は2教科3科目】	総合問題 (与えられた文章を理解し、関連する資料(図、教表、グラフ、地図、英文などを含む)に基づいて、論理的に考え、判断し、論述する力を問う。視光を学術的にとらえていく上で必要な知識、思考力、表現力を備えているかを問う。)	個別学力検査等												600	
		国	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1 現社、倫、政経、倫・政経 } 又は2 ① 教I、教I・教Aから1 ② 教II、教II・教B、簿、情報から1 ① 物基、化基、生基、地基から2 ② 物、化、生、地 から1 英(リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1 【3教科4(3)科目又は2教科3科目】	総合問題 (与えられた文章を理解し、関連する資料(図、教表、グラフ、地図、英文などを含む)に基づいて、論理的に考え、判断し、論述する力を問う。視光を学術的にとらえていく上で必要な知識、思考力、表現力を備えているかを問う。)	センター試験	*100	*100	*100	*100	*100	*100	400				600		
		外	英(リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1 【3教科4(3)科目又は2教科3科目】	総合問題 (与えられた文章を理解し、関連する資料(図、教表、グラフ、地図、英文などを含む)に基づいて、論理的に考え、判断し、論述する力を問う。視光を学術的にとらえていく上で必要な知識、思考力、表現力を備えているかを問う。)	個別学力検査等								400			400		
					計	200	*300	*100	*100	200	*300	500				1500		
					計	*100	*100	*100	*100	*100	*100	400				1000		

【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄

以下の説明において、「数学」で【数I、数I・数A】を「数①」とし、【数II、数II・教B、簿、情報】を「数②」とします。「理科」で基礎を付した科目を「理①」、基礎を付していない科目を「理②」とします。

【前期日程・後期日程共通】

1. 外国語の「英語」において、筆記試験とリスニングを課します(リスニングが免除となった場合を除き、筆記試験及びリスニングの両方を受験している場合のみ、英語を受験したことになります)。

【前期日程】

1. 「地歴」【世B、日B、地理B】から必ず1科目以上を受験してください。

2. 「理科」において、「理②」2科目を受験した場合は、第1解答科目の得点を採用します。

3. 「理科」において、「理①」と「理②」の両方を受験した場合は、「理①」の2科目合計得点又は「理②」の得点のいずれか高い方の得点を採用します。

【後期日程】

指定教科数・科目数を超えて受験している場合には、次のa、bの中から最も高得点となる組合せを採用します。

a. 「地歴」、「公民」から2科目の組合せ

b. 以下から2つの組合せ

・「国」

・「地歴」、「公民」の第1解答科目

・「数①」

・「数②」

・「理①」2科目の合計得点又は「理②」第1解答科目の得点のいずれか高い方

【個別学力検査等】欄

1. 国語総合は、近代以降の文章、古典(古文、漢文)から出題します。

2. 数学I、数学II、数学Aは、全範囲を出題範囲とします。数学Bは、数列、ベクトルを出題範囲とします。

3. 英語表現Iは、リスニングを出題範囲から除きます。

【大学入試センター試験・個別学力検査等の配点】欄

1. 配点に*印を付してある教科は、選択教科を表します。

2. 大学入試センター試験 外国語の「英語」において、筆記試験(200点満点)とリスニング(50点満点)の合計点を0.8倍(200点満点)に圧縮したものを英語の得点とし、本学部が定めている配点に換算します。ただし、重度難聴者等でリスニングが免除となった場合は、筆記試験(200点満点)の得点を圧縮せず、そのまま英語の得点とし、本学部が定めている配点に換算します。

教育学部実技検査内容

課程・系		学校教育教員養成課程実技系		
実施日程		前期日程		
専攻	区 分	選択種目	検 査 内 容	注意事項
音 楽	実技Ⅰ群	A. 声楽	<p>○次の曲を原語・暗譜で演奏してください。</p> <p>○調性は任意で良いが、演奏する調性の伴奏用の楽譜のコピーを入学願書等とともに1部提出してください。(伴奏者は大学側が用意します)</p> <p>A. カルダレーラ作曲「Sebben, crudele (たとえ つれなくても)」</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">高中声用は全音楽譜出版社刊『イタリア歌曲集1』、低声用はカワイ出版刊『古典イタリア歌曲集4』を使用してください。</p>	<p>選択種目の組合せ</p> <p>選択種目の組合せは以下の3とおりとします。</p> <p>いずれかひとつの組合せを選択してください。</p> <p>Aと2、Bと1、Cと2</p>
		B. ピアノ	<p>○次の曲を暗譜で演奏してください。(くり返しは省略します。)</p> <p>L. van ベートーヴェン作曲「ピアノソナタ No.12 Op.26 第3・4楽章」</p>	
		C. 管・打楽器	<p>○任意の1曲を無伴奏で演奏してください。</p> <p>○暗譜の必要はありません。(演奏時間が長い場合は、途中でカットすることがあります。)</p> <p>○演奏する楽曲の楽譜のコピーを入学願書等とともに1部提出してください。</p> <p>○楽器及び演奏に必要なものは各自持参してください。但し、マリンバの場合、大学で用意する楽器(サイトウ MS-75<4オクターヴ、49鍵、C28～C76)で演奏してください。</p> <p>【受験可能楽器】</p> <p>フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォーン、ホルン、トランペット、トロンボーン、ユーフォニアム、チューバ、マリンバ、スネア・ドラムからひとつを選択</p>	
	実技Ⅱ群	1 声楽	<p>○次の曲を暗譜の上、母音のaで演奏してください。</p> <p>○調性は任意で良いが、演奏する調性の伴奏用の楽譜のコピーを入学願書等とともに1部提出してください。(伴奏者は大学側が用意します。)</p> <p>『コンコーネ50番』より13番</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">全音楽譜出版社刊『コンコーネ50番』を使用してください。</p>	
		2 ピアノ	<p>○次の曲を暗譜で演奏してください。(くり返しは省略します。)</p> <p>W.A. モーツァルト作曲「ピアノソナタ No.16 KV545 第1楽章」</p>	

美術	共通 〔全員が受験してください。〕	造形表現Ⅰ（平面） 与えられたモチーフを配置し、鉛筆を用いて素描してください。 (試験時間：120分)	持参物 素描用黒鉛筆、練り消しゴム、プラスチック消しゴム、カッターナイフ、30cm程度の直定規、三角定規(一組)、コンパス ※その他の道具等はすべて大学で用意します。
		造形表現Ⅱ（立体） 与えられた主題を、配付された素材(紙)の特性を生かして立体的に表現してください。 (試験時間：180分)	
保健体育	共通 〔全員が受験してください。〕	〔基礎運動能力テスト〕 1. 12分間走 2. 立ち幅跳び 3. ハンドボール投げ 4. マット運動	雨天の場合は基礎運動能力テストの種目に一部変更があります。 ○体育館シューズを用意してください。 ○各種目に応じたシューズの使用を認めます。 ○バドミントン・テニス受験者はラケットの持参を認めます。 ○柔道受験者は柔道衣を持参してください。 ○野球受験者はグローブ、バット、ヘルメットを持参してください。
		〔選択種目別 実技テスト〕 1. 陸上競技 (100m走、800m走、走幅跳、走高跳、砲丸投、槍投、ハンマー投、円盤投から1種目) 2. バスケットボール 3. バレーボール 4. サッカー 5. 柔道 6. バドミントン 7. 創作ダンス 8. 野球(硬式) 9. ハンドボール 10. テニス(硬式)	

個別学力検査等実施教科・科目の試験時間

●前期日程

学 部	国 語	数 学	外国語	総合問題A	総合問題B I 総合問題B II	実 技 検 査
教 育 学 部	90分	90分	90分			およそ学力検査3教科分の 所要時間に準ずる。
経 済 学 部				90分	60分	
システム工学部		120分	90分			
観 光 学 部	90分	90分	90分			

●後期日程

学 部	小 論 文
教 育 学 部	120分

学 部	総 合 問 題 (後 期)
経 済 学 部	90分

学 部	総 合 問 題
システム工学部	120分

学 部	総 合 問 題
観 光 学 部	90分

特別入試

推薦入試

No. 1

実施学部・学科等名	教育学部 学校教育教員養成課程 初等教育コース（文科系又は理科系）																																																					
募集人員	10名																																																					
出願資格	<p>次の【基礎資格】を有し、かつ、【要件】を満たす者</p> <p>【基礎資格】 次の各号のいずれかに該当する者</p> <p>(1)高等学校若しくは中等教育学校を平成31年3月までに卒業見込みの者 (2)通常の課程による12年の学校教育を平成31年3月までに修了見込みの者</p> <p>【要件】 次のすべてに該当する者</p> <p>(1)本学部が指定する平成31年度大学入試センター試験の受験を要する教科・科目を受験した者 (2)出身学校長が責任をもって推薦できる者（1校当たり1名とする） (3)「初等教育」に関心を持ち、小学校教員を志望する者 (4)受験することを確約でき、合格した場合、入学することを確約できる者</p>																																																					
選抜方法等	<p>大学入試センター試験の成績、面接の結果及び出願書類（推薦書、志望理由書、調査書）により総合して行います。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="4">大学入試センター試験の利用教科・科目名</th> <th>個別学力検査等の教科・科目名等</th> <th rowspan="2">配点合計</th> </tr> <tr> <th>教科グループ</th> <th>科目名等</th> <th>配点(文科系)</th> <th>配点(理科系)</th> <th>面接</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国</td> <td>国</td> <td>60</td> <td>40</td> <td rowspan="10" style="text-align: center; vertical-align: middle;">300</td> <td rowspan="10" style="text-align: center; vertical-align: middle;">500</td> </tr> <tr> <td>地歴</td> <td>世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1</td> <td>20</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>公民</td> <td>現社、倫、政経、倫・政経</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">数</td> <td>① 数I・数A</td> <td>40</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>② 数II・数B、簿、情報から1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">理</td> <td>① 物基、化基、生基、地基から2 又は</td> <td>20</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>② 物、化、生、地 から1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>外</td> <td>英（リスニングを含む）、独、仏、中、韓から1</td> <td>60</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">【5教科7(6)科目】</td> <td>200</td> <td>200</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄 以下の説明において、「理科」で基礎を付した科目を「理①」、基礎を付していない科目を「理②」とします。</p> <p>(注1)外国語の「英語」において、筆記試験とリスニングを課します(リスニングが免除となった場合を除き、筆記試験及びリスニングの両方を受験している場合のみ、英語を受験したことになります)。</p> <p>(注2)「地歴」、「公民」において、2科目を受験した場合は、第1解答科目の得点を採用します。</p> <p>(注3)「理科」において、「理②」2科目を受験した場合は、第1解答科目の得点を採用します。</p> <p>(注4)「理科」において、「理①」と「理②」の両方を受験した場合は、「理①」の2科目合計得点又は「理②」の得点のいずれか高い方の得点を採用します。</p> <p>(注5)大学入試センター試験 外国語の「英語」において、筆記試験(200点満点)とリスニング(50点満点)の合計点を0.8倍(200点満点)に圧縮したものを英語の得点とし、本学部が定めている配点に換算します。ただし、重度難聴者等でリスニングが免除となった場合は、筆記試験(200点満点)の得点を圧縮せず、そのまま英語の得点とし、本学部が定めている配点に換算します。</p> <p>(注6)大学入試センター試験の配点は、出願時に選択する文科系又は理科系により異なりますので注意してください。</p>					大学入試センター試験の利用教科・科目名				個別学力検査等の教科・科目名等	配点合計	教科グループ	科目名等	配点(文科系)	配点(理科系)	面接	国	国	60	40	300	500	地歴	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1	20	20	公民	現社、倫、政経、倫・政経			数	① 数I・数A	40	60	② 数II・数B、簿、情報から1			理	① 物基、化基、生基、地基から2 又は	20	40	② 物、化、生、地 から1			外	英（リスニングを含む）、独、仏、中、韓から1	60	40	【5教科7(6)科目】		200	200		
大学入試センター試験の利用教科・科目名				個別学力検査等の教科・科目名等	配点合計																																																	
教科グループ	科目名等	配点(文科系)	配点(理科系)	面接																																																		
国	国	60	40	300	500																																																	
地歴	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1	20	20																																																			
公民	現社、倫、政経、倫・政経																																																					
数	① 数I・数A	40	60																																																			
	② 数II・数B、簿、情報から1																																																					
理	① 物基、化基、生基、地基から2 又は	20	40																																																			
	② 物、化、生、地 から1																																																					
外	英（リスニングを含む）、独、仏、中、韓から1	60	40																																																			
【5教科7(6)科目】		200	200																																																			
出願期間	平成31年1月8日(火)～1月10日(休)																																																					
選抜期日	平成31年2月2日(土)																																																					
合格者発表日	平成31年2月10日(日)																																																					
その他	(注)推薦入試と推薦入試地域(紀南)推薦枠は併願できません。																																																					

推薦入試

No. 2

実施学部・学科等名	教育学部 学校教育教員養成課程 中等教育コース（文科系又は理科系）																																																					
募集人員	5名																																																					
出願資格	<p>次の【基礎資格】を有し、かつ、【要件】を満たす者</p> <p>【基礎資格】 次の各号のいずれかに該当する者</p> <p>(1)高等学校若しくは中等教育学校を平成31年3月までに卒業見込みの者 (2)通常の課程による12年の学校教育を平成31年3月までに修了見込みの者</p> <p>【要件】 次のすべてに該当する者</p> <p>(1)本学部が指定する平成31年度大学入試センター試験の受験を要する教科・科目を受験した者 (2)出身学校長が責任をもって推薦できる者（1校当たり1名とする） (3)「中等教育」に関心を持ち、中学校教員を志望する者 (4)受験することを確約でき、合格した場合、入学することを確約できる者</p>																																																					
選抜方法等	<p>大学入試センター試験の成績、面接の結果及び出願書類（推薦書、志望理由書、調査書）により総合して行います。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="4">大学入試センター試験の利用教科・科目名</th> <th>個別学力検査等の教科・科目名等</th> <th rowspan="2">配点合計</th> </tr> <tr> <th>教科グループ</th> <th>科目名等</th> <th>配点(文科系)</th> <th>配点(理科系)</th> <th>面接</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国</td> <td>国</td> <td>60</td> <td>40</td> <td rowspan="10" style="text-align: center; vertical-align: middle;">300</td> <td rowspan="10" style="text-align: center; vertical-align: middle;">500</td> </tr> <tr> <td>地歴</td> <td>世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1</td> <td>20</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>公民</td> <td>現社、倫、政経、倫・政経</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">数</td> <td>① 数I・数A</td> <td>40</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>② 数II・数B、簿、情報から1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">理</td> <td>① 物基、化基、生基、地基から2 又は</td> <td>20</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>② 物、化、生、地 から1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>外</td> <td>英（リスニングを含む）、独、仏、中、韓から1</td> <td>60</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">【5教科7(6)科目】</td> <td>200</td> <td>200</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄 以下の説明において、「理科」で基礎を付した科目を「理①」、基礎を付していない科目を「理②」とします。</p> <p>(注1) 外国語の「英語」において、筆記試験とリスニングを課します(リスニングが免除となった場合を除き、筆記試験及びリスニングの両方を受験している場合のみ、英語を受験したことになります)。</p> <p>(注2) 「地歴」、「公民」において、2科目を受験した場合は、第1解答科目の得点を採用します。</p> <p>(注3) 「理科」において、「理②」2科目を受験した場合は、第1解答科目の得点を採用します。</p> <p>(注4) 「理科」において、「理①」と「理②」の両方を受験した場合は、「理①」の2科目合計得点又は「理②」の得点のいずれか高い方の得点を採用します。</p> <p>(注5) 大学入試センター試験 外国語の「英語」において、筆記試験(200点満点)とリスニング(50点満点)の合計点を0.8倍(200点満点)に圧縮したものを英語の得点とし、本学部が定めている配点に換算します。ただし、重度難聴者等でリスニングが免除となった場合は、筆記試験(200点満点)の得点を圧縮せず、そのまま英語の得点とし、本学部が定めている配点に換算します。</p> <p>(注6) 大学入試センター試験の配点は、出願時に選択する文科系又は理科系により異なりますので注意してください。</p>					大学入試センター試験の利用教科・科目名				個別学力検査等の教科・科目名等	配点合計	教科グループ	科目名等	配点(文科系)	配点(理科系)	面接	国	国	60	40	300	500	地歴	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1	20	20	公民	現社、倫、政経、倫・政経			数	① 数I・数A	40	60	② 数II・数B、簿、情報から1			理	① 物基、化基、生基、地基から2 又は	20	40	② 物、化、生、地 から1			外	英（リスニングを含む）、独、仏、中、韓から1	60	40	【5教科7(6)科目】		200	200		
大学入試センター試験の利用教科・科目名				個別学力検査等の教科・科目名等	配点合計																																																	
教科グループ	科目名等	配点(文科系)	配点(理科系)	面接																																																		
国	国	60	40	300	500																																																	
地歴	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1	20	20																																																			
公民	現社、倫、政経、倫・政経																																																					
数	① 数I・数A	40	60																																																			
	② 数II・数B、簿、情報から1																																																					
理	① 物基、化基、生基、地基から2 又は	20	40																																																			
	② 物、化、生、地 から1																																																					
外	英（リスニングを含む）、独、仏、中、韓から1	60	40																																																			
【5教科7(6)科目】		200	200																																																			
出願期間	平成31年1月8日(火)～1月10日(休)																																																					
選抜期日	平成31年2月2日(土)																																																					
合格者発表日	平成31年2月10日(日)																																																					
その他	(注)推薦入試と推薦入試地域(紀南)推薦枠は併願できません。																																																					

推薦入試

No. 3

実施学部・学科等名	教育学部 学校教育教員養成課程 特別支援教育コース																																								
募集人員	5名																																								
出願資格	<p>次の【基礎資格】を有し、かつ、【要件】を満たす者</p> <p>【基礎資格】 次の各号のいずれかに該当する者</p> <p>(1)高等学校若しくは中等教育学校を平成31年3月までに卒業見込みの者 (2)通常の課程による12年の学校教育を平成31年3月までに修了見込みの者</p> <p>【要件】 次のすべてに該当する者</p> <p>(1)本学部が指定する平成31年度大学入試センター試験の受験を要する教科・科目を受験した者 (2)出身学校長が責任をもって推薦できる者（1校当たり1名とする） (3)「特別支援教育」に関心を持ち、特別支援学校教員を志望する者 (4)受験することを確約でき、合格した場合、入学することを確約できる者</p>																																								
選抜方法等	<p>大学入試センター試験の成績、面接の結果及び出願書類（推薦書、志望理由書、調査書）により総合して行います。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="3">大学入試センター試験の利用教科・科目名</th> <th>個別学力検査等の教科・科目名等</th> <th></th> </tr> <tr> <th>教科グループ</th> <th>科目名等</th> <th>配点</th> <th>面接</th> <th>配点合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国</td> <td>国</td> <td>50</td> <td rowspan="7" style="text-align: center; vertical-align: middle;">300</td> <td rowspan="7" style="text-align: center; vertical-align: middle;">500</td> </tr> <tr> <td>地歴</td> <td>世A、世B、日A、日B、地理A、地理B</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">25</td> </tr> <tr> <td>公民</td> <td>現社、倫、政経、倫・政経</td> </tr> <tr> <td>数</td> <td>① 数I・数A</td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">50</td> </tr> <tr> <td></td> <td>② 数II・数B、簿、情報から1</td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">25</td> </tr> <tr> <td>理</td> <td>① 物基、化基、生基、地基から2 又は</td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">25</td> </tr> <tr> <td></td> <td>② 物、化、生、地 から1</td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">50</td> </tr> <tr> <td>外</td> <td>英（リスニングを含む）、独、仏、中、韓から1</td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">50</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">【5教科7(6)科目】</td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">200</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【大学入試センター試験の利用教科・科目名】欄 以下の説明において、「理科」で基礎を付した科目を「理①」、基礎を付していない科目を「理②」とします。</p> <p>(注1)外国語の「英語」において、筆記試験とリスニングを課します(リスニングが免除となった場合を除き、筆記試験及びリスニングの両方を受験している場合のみ、英語を受験したことになります)。</p> <p>(注2)「地歴」、「公民」において、2科目を受験した場合は、第1解答科目の得点を採用します。</p> <p>(注3)「理科」において、「理②」2科目を受験した場合は、第1解答科目の得点を採用します。</p> <p>(注4)「理科」において、「理①」と「理②」の両方を受験した場合は、「理①」の2科目合計得点又は「理②」の得点のいずれか高い方の得点を採用します。</p> <p>(注5)大学入試センター試験 外国語の「英語」において、筆記試験(200点満点)とリスニング(50点満点)の合計点を0.8倍(200点満点)に圧縮したものを英語の得点とし、本学部が定めている配点に換算します。ただし、重度難聴者等でリスニングが免除となった場合は、筆記試験(200点満点)の得点を圧縮せず、そのまま英語の得点とし、本学部が定めている配点に換算します。</p>	大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等の教科・科目名等		教科グループ	科目名等	配点	面接	配点合計	国	国	50	300	500	地歴	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B	25	公民	現社、倫、政経、倫・政経	数	① 数I・数A	50		② 数II・数B、簿、情報から1	25	理	① 物基、化基、生基、地基から2 又は	25		② 物、化、生、地 から1	50	外	英（リスニングを含む）、独、仏、中、韓から1	50	【5教科7(6)科目】			200	
大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等の教科・科目名等																																						
教科グループ	科目名等	配点	面接	配点合計																																					
国	国	50	300	500																																					
地歴	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B	25																																							
公民	現社、倫、政経、倫・政経																																								
数	① 数I・数A	50																																							
	② 数II・数B、簿、情報から1	25																																							
理	① 物基、化基、生基、地基から2 又は	25																																							
	② 物、化、生、地 から1	50																																							
外	英（リスニングを含む）、独、仏、中、韓から1	50																																							
【5教科7(6)科目】			200																																						
出願期間	平成31年1月8日(火)～1月10日(木)																																								
選抜期日	平成31年2月2日(土)																																								
合格者発表日	平成31年2月10日(日)																																								
その他	(注)推薦入試と推薦入試地域(紀南)推薦枠は併願できません。																																								

推薦入試地域(紀南)推薦枠

No. 4

実施学部・学科等名	教育学部 学校教育教員養成課程 初等教育コース (文科系又は理科系)						
募集人員	5名						
出願資格	<p>次の【基礎資格】を有し、かつ、【要件】を満たす者</p> <p>【基礎資格】 次の各号のいずれかに該当する者</p> <p>(1)高等学校若しくは中等教育学校を平成31年3月までに卒業見込みの者 (2)通常の課程による12年の学校教育を平成31年3月までに修了見込みの者</p> <p>【要件】 次のすべてに該当する者</p> <p>(1)和歌山県紀南（御坊市、田辺市、新宮市、日高郡、西牟婁郡、東牟婁郡）に所在する出身学校長が責任をもって推薦できる者 (2)調査書全体の評定平均値が4.0以上の者（出願前の学期までの成績による） (3)「初等教育」に関心を持ち、紀南の小学校教員を志望する者 (4)受験することを確約でき、合格した場合、入学することを確約できる者</p>						
選抜方法等	<p>大学入試センター試験を免除し、小論文、面接の結果及び出願書類（推薦書、志望理由書及び調査書）により総合して行います。</p> <p>・配点</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>小論文</th> <th>面接・推薦書・志望理由書・調査書</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>250</td> <td>250</td> <td>500</td> </tr> </tbody> </table>	小論文	面接・推薦書・志望理由書・調査書	合計	250	250	500
小論文	面接・推薦書・志望理由書・調査書	合計					
250	250	500					
出願期間	平成30年11月1日(木)～11月5日(月)						
選抜期日	平成30年11月18日(日)						
合格者発表日	平成30年12月7日(金)						
その他	<p>(注)推薦入試地域(紀南)推薦枠については、各校3名を上限とします。 (注)推薦入試と推薦入試地域(紀南)推薦枠は併願できません。</p>						

推薦入試地域(紀南)推薦枠

No. 5

実施学部・学科等名	教育学部 学校教育教員養成課程 中等教育コース (文科系又は理科系)						
募集人員	5名						
出願資格	<p>次の【基礎資格】を有し、かつ、【要件】を満たす者</p> <p>【基礎資格】 次の各号のいずれかに該当する者</p> <p>(1)高等学校若しくは中等教育学校を平成31年3月までに卒業見込みの者 (2)通常の課程による12年の学校教育を平成31年3月までに修了見込みの者</p> <p>【要件】 次のすべてに該当する者</p> <p>(1)和歌山県紀南（御坊市、田辺市、新宮市、日高郡、西牟婁郡、東牟婁郡）に所在する出身学校長が責任をもって推薦できる者 (2)調査書全体の評定平均値が4.0以上の者（出願直前の学期までの成績による） (3)「中等教育」に関心を持ち、紀南の中学校教員を志望する者 (4)受験することを確約でき、合格した場合、入学することを確約できる者</p>						
選抜方法等	<p>大学入試センター試験を免除し、小論文、面接の結果及び出願書類（推薦書、志望理由書及び調査書）により総合して行います。</p> <p>・配点</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>小論文</th> <th>面接・推薦書・志望理由書・調査書</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">250</td> <td style="text-align: center;">250</td> <td style="text-align: center;">500</td> </tr> </tbody> </table>	小論文	面接・推薦書・志望理由書・調査書	合計	250	250	500
小論文	面接・推薦書・志望理由書・調査書	合計					
250	250	500					
出願期間	平成30年11月1日(木)～11月5日(月)						
選抜期日	平成30年11月18日(日)						
合格者発表日	平成30年12月7日(金)						
その他	<p>(注)推薦入試地域(紀南)推薦枠については、各校3名を上限とします。 (注)推薦入試と推薦入試地域(紀南)推薦枠は併願できません。</p>						

推薦入試

No. 6

実施学部・学科等名	経済学部 経済学科						
募集人員	30名						
出願資格	<p>次の【基礎資格】を有し、かつ、【要件】を満たす者</p> <p>【基礎資格】 次の各号のいずれかに該当する者</p> <p>(1)高等学校若しくは中等教育学校を平成31年3月までに卒業見込みの者 (2)通常の課程による12年の学校教育を平成31年3月までに修了見込みの者</p> <p>【要件】 次のすべてに該当する者</p> <p>(1)出身学校長が責任をもって推薦できる者（1校当たり3名までとする） (2)調査書全体の評定平均値が4.0以上の者（出願時直前の学期までの成績による） (3)受験することを確約でき、合格した場合、入学することを確約できる者</p>						
選抜方法等	<p>大学入試センター試験を免除します。 小論文、面接（与えられたテーマに関する集団討論）の成績、及び出願書類を総合して評価します。</p> <p>・配点</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>小論文</th> <th>面接・出願書類</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100</td> <td>100</td> <td>200</td> </tr> </tbody> </table>	小論文	面接・出願書類	合計	100	100	200
小論文	面接・出願書類	合計					
100	100	200					
出願期間	平成30年11月1日(木)～11月6日(火)						
選抜期日	平成30年12月8日(土)						
合格者発表日	平成30年12月14日(金)						
その他							

スポーツ推薦入試

No. 7

実施学部・学科等名	経済学部 経済学科						
募 集 人 員	4 名						
出 願 資 格	<p>次の【基礎資格】を有し、かつ、【要件】を満たす者</p> <p>【基礎資格】 次の各号のいずれかに該当する者</p> <p>(1)高等学校若しくは中等教育学校を平成31年3月までに卒業見込みの者 (2)通常の課程による12年の学校教育を平成31年3月までに修了見込みの者</p> <p>【要件】 次のすべてに該当する者</p> <p>(1)出身学校長が責任をもって推薦できる者（1校当たり1名とする） (2)学業とスポーツを3年間両立させてきたことによる出身学校長からの推薦であること (3)調査書全体の評定平均値が3.5以上の者（出願時直前の学期までの成績による） (4)高等学校の運動部の顧問あるいは所属する団体の監督・責任者から推薦される者（優れた人間性と、全国大会水準のスポーツ技能を有することによる推薦であること） (5)受験することを確約でき、合格した場合、入学することを確約できる者 (6)入学後は、本学体育会所属団体あるいはその他の団体でスポーツ活動を継続する意志を有する者</p>						
選 抜 方 法 等	<p>大学入試センター試験を免除します。 小論文、面接の成績、及び出願書類を総合して評価します。</p> <p>・配点</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>小論文</th> <th>面接・出願書類</th> <th>合 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100</td> <td>200</td> <td>300</td> </tr> </tbody> </table>	小論文	面接・出願書類	合 計	100	200	300
小論文	面接・出願書類	合 計					
100	200	300					
出 願 期 間	平成30年11月1日(木)～11月6日(火)						
選 抜 期 日	平成30年12月8日(土)						
合 格 者 発 表 日	平成30年12月14日(金)						
そ の 他							

推薦入試

No. 8

実施学部・学科等名	システム工学部 システム工学科																																																	
募 集 人 員	35名																																																	
出 願 資 格	<p>次の【基礎資格】を有し、かつ、【要件】を満たす者</p> <p>【基礎資格】 次の各号のいずれかに該当する者</p> <p>(1)高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者及び平成31年3月までに卒業見込みの者</p> <p>(2)特別支援学校高等部を修了した者及び平成31年3月までに修了見込みの者</p> <p>(3)高等専門学校3年次を平成31年3月までに修了見込みの者</p> <p>【要件】 次のすべてに該当する者</p> <p>(1)本学部が指定する平成31年度大学入試センター試験の受験を要する教科・科目を受験した者</p> <p>(2)出身学校長が責任をもって推薦できる者</p> <p>(3)学業成績が優秀で本学部での学習に強い意欲をもつ者</p> <p>(4)合格した場合、入学することを確約できる者</p>																																																	
選 抜 方 法 等	<p>大学入試センター試験の成績、面接の結果及び出願書類により総合して行います。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">学科名</th> <th colspan="3">大学入試センター試験の利用教科・科目名</th> <th colspan="2">個別学力検査等</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>教科 グループ</th> <th>科 目 名 等</th> <th>配点</th> <th>教 科・ 科目名等</th> <th>配点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">システム 工 学 科</td> <td>国</td> <td>国</td> <td>200</td> <td rowspan="6">面 接</td> <td rowspan="6">600</td> <td rowspan="6">1800</td> </tr> <tr> <td>地歴</td> <td>世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>公民</td> <td>現社、倫、政経、倫・政経</td> <td></td> </tr> <tr> <td>数 ①</td> <td>数I、数I・数Aから1</td> <td>150</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>数II、数II・数B、簿、情報から1</td> <td>150</td> </tr> <tr> <td>理 ②</td> <td>物、化、生、地から2</td> <td>150×2</td> </tr> <tr> <td>外</td> <td>英 (リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">【5教科7科目】</td> <td>1200</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(注1)外国語の「英語」において、筆記試験とリスニングを課します(リスニングが免除となった場合を除き、筆記試験及びリスニングの両方を受験している場合のみ、英語を受験したことになります)。</p> <p>(注2)「地歴」、「公民」において、2科目を受験した場合は、第1解答科目の得点を採用します。</p> <p>(注3)大学入試センター試験 外国語の「英語」において、筆記試験(200点満点)とリスニング(50点満点)の合計点を0.8倍(200点満点)に圧縮したものを英語の得点とし、本学部が定めている配点に換算します。ただし、重度難聴者等でリスニングが免除となった場合は、筆記試験(200点満点)の得点を圧縮せず、そのまま英語の得点とし、本学部が定めている配点に換算します。</p>						学科名	大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等		合計	教科 グループ	科 目 名 等	配点	教 科・ 科目名等	配点	システム 工 学 科	国	国	200	面 接	600	1800	地歴	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1	100	公民	現社、倫、政経、倫・政経		数 ①	数I、数I・数Aから1	150	②	数II、数II・数B、簿、情報から1	150	理 ②	物、化、生、地から2	150×2	外	英 (リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1	300			【5教科7科目】	1200			
学科名	大学入試センター試験の利用教科・科目名			個別学力検査等		合計																																												
	教科 グループ	科 目 名 等	配点	教 科・ 科目名等	配点																																													
システム 工 学 科	国	国	200	面 接	600	1800																																												
	地歴	世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1	100																																															
	公民	現社、倫、政経、倫・政経																																																
	数 ①	数I、数I・数Aから1	150																																															
	②	数II、数II・数B、簿、情報から1	150																																															
	理 ②	物、化、生、地から2	150×2																																															
外	英 (リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1	300																																																
		【5教科7科目】	1200																																															
出 願 期 間	平成31年1月8日(火)～1月10日(休)																																																	
選 抜 期 日	平成31年1月25日(金)																																																	
合 格 者 発 表 日	平成31年2月10日(日)																																																	
そ の 他																																																		

推薦入試

No. 9

実施学部・学科等名	観光学部 観光学科		
募集人員	25名		
出願資格	<p>次の【基礎資格】を有し、かつ、【要件】を満たす者</p> <p>【基礎資格】 次の各号のいずれかに該当する者</p> <p>(1)高等学校若しくは中等教育学校を平成31年3月までに卒業見込みの者 (2)通常の課程による12年の学校教育を平成31年3月までに修了見込みの者</p> <p>【要件】 次のすべてに該当する者</p> <p>(1)出身学校長が責任をもって推薦できる者（1校当たり3名までとする） (2)調査書における全体の評定平均値が4.0以上の者(出願時直前の学期までの成績による)</p> <p>(3)受験することを確約でき、合格した場合、入学することを確約できる者</p>		
選抜方法等	<p>大学入試センター試験を免除し、面接（高等学校時代の優れた実績や体験などの自己アピールを含みます。）及び出願書類（推薦書、自己推薦書及び調査書）により総合して行います。出願時に英語による自己推薦書を作成した者は、英語による面接となります。</p> <p>・配点</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>面接・出願書類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">100</td> </tr> </table>	面接・出願書類	100
面接・出願書類			
100			
出願期間	平成30年11月1日(木)～11月6日(火)		
選抜期日	平成30年12月8日(土)又は12月9日(日) (詳細は、受験票発送時に志願者本人に通知します。)		
合格者発表日	平成30年12月14日(金)		
その他			

帰国子女特別入試

No.10

実施学部・学科等名	経済学部 経済学科		
募 集 人 員	3名		
出 願 資 格	<p>日本国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者で、保護者の海外勤務等の事情により外国の学校教育を受けている者（保護者が先に日本に帰国した後、引き続き単身で在留している者を含む）のうち、次の各号のいずれかに該当する者</p> <p>(1)外国において、学校教育における12年の課程（日本における通常の課程による学校教育の期間を含む）を2017年4月1日から2019年3月31日までに修了した者又は修了見込みの者で外国において最終学年を含めて2年以上継続して学校教育を受けた者 ただし、外国に設置されたものであっても日本の学校教育法に準拠した教育を行っている学校に在学して教育を受けた期間は、外国において学校教育を受けた期間とみなさない。</p> <p>(2)外国において、高等学校に対応する学校の課程（その修了者が当該外国の学校教育における11年以上の課程を修了したとされるものであることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを修了した者及び2019年3月31日までに修了見込みの者</p> <p>(3)外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局から国際バカロレアの資格証書を2017年又は2018年に授与された者で、2019年3月31日までに18歳に達するもの</p> <p>(4)外国において、ドイツ連邦共和国の各州で大学入学資格として認められているアビトゥア資格を2017年又は2018年に取得した者で、2019年3月31日までに18歳に達するもの</p> <p>(5)外国において、フランス共和国のバカロレア資格証書を2017年又は2018年に授与された者で、2019年3月31日までに18歳に達するもの</p> <p>(6)外国において、グレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国において大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格を取得した者で、2019年3月31日までに18歳に達するもの</p> <p>(7)外国において、国際的な評価団体（WASC、CIS、ACSI）から教育活動等に係る認定を受けた教育施設に置かれる12年の課程を修了した者で、2019年3月31日までに18歳に達するもの</p>		
選 抜 方 法 等	<p>大学入試センター試験を免除します。</p> <p>面接（日本語）の成績及び出願書類を総合して評価します。</p> <p>・配点</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>面接・出願書類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">300</td> </tr> </table>	面接・出願書類	300
面接・出願書類			
300			
出 願 期 間	平成30(2018)年11月1日(木)～11月6日(火)		
選 抜 期 日	平成30(2018)年11月29日(木)		
合 格 者 発 表 日	平成30(2018)年12月7日(金)		
そ の 他			

社会人特別入試

No.11

実施学部・学科等名	経済学部 経済学科		
募 集 人 員	3名		
出 願 資 格	<p>出願時点で社会人の経験を3年以上(注)有し、平成31年3月31日までに年齢満21歳以上で、次の各号のいずれかに該当する者</p> <p>(1)高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者及び平成31年3月までに卒業見込みの者</p> <p>(2)通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成31年3月までに修了見込みの者</p> <p>(3)高等学校卒業程度認定試験（又は大学入学資格検定試験）合格者及び平成31年3月31日までに合格見込みの者</p> <p>(4)旧制諸学校の卒業者又は中途退学者で、文部科学大臣の定めるところにより大学入学資格を有する者</p> <p>(注)「社会人の経験を3年以上」の対象となる期間と、高等学校の定時制課程及び通信制課程の在学期間は、重複しても構いません。</p>		
選 抜 方 法 等	<p>大学入試センター試験を免除します。</p> <p>面接の成績及び出願書類を総合して評価します。</p> <p>・配点</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>面接・出願書類</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">300</td> </tr> </table>	面接・出願書類	300
面接・出願書類			
300			
出 願 期 間	平成30年11月1日(休)～11月6日(火)		
選 抜 期 日	平成30年11月29日(休)		
合 格 者 発 表 日	平成30年12月7日(金)		
そ の 他			

社会人特別入試

No.12

実施学部・学科等名	観光学部 観光学科						
募 集 人 員	2名						
出 願 資 格	<p>平成31年3月31日までに年齢満25歳に達し、<u>社会人の経験を3年以上</u>(注)有する者で、次の各号のいずれかに該当する者</p> <p>(1)高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者及び平成31年3月までに卒業見込みの者</p> <p>(2)通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成31年3月までに修了見込みの者</p> <p>(3)高等学校卒業程度認定試験（又は大学入学資格検定試験）合格者及び平成31年3月31日までに合格見込みの者</p> <p>(4)旧制諸学校の卒業者又は中途退学者で、文部科学大臣の定めるところによって大学入学資格を有する者</p> <p>(注)<u>社会人の経験を3年以上</u>には、夜間又は通信制以外の学校在学期間は含めません。</p>						
選 抜 方 法 等	<p>大学入試センター試験を免除し、小論文、面接の結果により総合して行います。</p> <p>・配点</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>小論文</th> <th>面 接</th> <th>合 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>200</td> <td>100</td> <td>300</td> </tr> </tbody> </table>	小論文	面 接	合 計	200	100	300
小論文	面 接	合 計					
200	100	300					
出 願 期 間	平成30年11月1日(木)～11月6日(火)						
選 抜 期 日	平成30年12月8日(土)						
合 格 者 発 表 日	平成30年12月14日(金)						
そ の 他							

AO入試

No.13

実施学部・学科等名	観光学部 観光学科									
募集人員	10名									
出願資格	<p>以下の(1)~(4)のすべての要件を満たす者</p> <p>(1)次の①から④のいずれかの要件を満たす者</p> <p>①高等学校若しくは中等教育学校を平成30年3月に卒業した者及び平成31年3月までに卒業見込みの者 ※卒業見込みの者には、学校長の出願承諾書の提出を求める。</p> <p>②通常の課程による12年の学校教育を平成30年3月以降修了した者及び平成31年3月までに修了見込みの者</p> <p>③専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを平成30年3月に修了した者及び平成31年3月までに修了見込みの者（かつ、文部科学大臣が別に定める日以降であること） ※修了見込みの者には、学校長の出願承諾書の提出を求める。</p> <p>④高等学校卒業程度認定試験合格者及び平成31年3月31日までに合格見込みの者で、平成31年4月1日に年齢満18歳又は満19歳の者</p> <p>(2)上記(1)①で出願する場合には、調査書の「学習成績概評」がB段階（全体の評定平均値3.5）以上の者（出願時直前の学期までの成績による）</p> <p>(3)次のいずれかの成績を修めた者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公益財団法人日本英語検定協会実用英語技能検定 2級以上合格 ・TOEIC Listening & Reading Test 500点以上 (団体特別受験制度(TOEIC IP)により受験した成績は認めない) ・TOEFL iBT 52点以上 ・TOEFL PBT(団体特別受験制度(TOEFL ITP)により受験した成績は認めない) 470点以上 ・GTEC(4技能版) 840点以上 ・GTEC for STUDENTS 又は GTEC(3技能版) 500点以上 ・GTEC CBT 720点以上 <p>(4)受験することを確約でき、合格した場合には入学できることを確約できる者</p>									
選抜方法等	<p>大学入試センター試験を免除します。</p> <p>第1次選考：書類選考とし、出願書類により総合して行います。</p> <p>第2次選考：第1次選考合格者に対し面接を行い、その結果により選抜を行います。</p> <p>第3次選考：第2次選考合格者に対しプレゼンテーションを課し、その結果により選抜を行います。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>第1次選考</th> <th>第2次選考</th> <th>第3次選考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>書類選考</td> <td>面接</td> <td>プレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	第1次選考	第2次選考	第3次選考	書類選考	面接	プレゼンテーション	100	100	100
第1次選考	第2次選考	第3次選考								
書類選考	面接	プレゼンテーション								
100	100	100								
出願期間	平成30年8月1日(水)～8月6日(月)									
選抜期日	<p>第1次選考：志願書及び調査書等により選考を行います。</p> <p>第2次選考：平成30年9月15日(土) ※〔予備日：9月16日(日)〕</p> <p>第3次選考：平成30年10月20日(土) ※〔予備日：10月21日(日)〕</p>									
合格者発表日	<p>第1次選考結果：平成30年9月5日(水)までに郵送により通知</p> <p>第2次選考結果：平成30年9月27日(木)までに郵送により通知</p> <p>第3次選考結果：平成30年10月26日(金)</p>									
その他										

私費外国人留学生特別入試

No.14

実施学部・学科等名	経済学部 経済学科、システム工学部 システム工学科、観光学部 観光学科
募集人員	各学部若干名
出願資格	<p>次の【基礎資格】を有し、かつ、【要件】を満たす者</p> <p>【基礎資格】</p> <p>次の各号のいずれかに該当する者</p> <p>(1)外国に所在し外国の教育制度に基づく教育機関において、学校教育における12年の課程を修了した者及び2019年3月31日までに修了見込みの者</p> <p>(2)外国において、学校教育における12年の課程を修了した者と同等の学力があるかどうかに関する認定試験であると認められる当該国の検定（国の検定に準ずる者を含む。次号において同じ。）に合格した者で、2019年3月31日までに18歳に達するもの</p> <p>(3)外国に所在し外国の教育制度に基づく教育機関において、高等学校に対応する学校の課程を修了した者（これと同等以上の学力があるかどうかに関する認定試験であると認められる当該国の検定に合格した者を含む。）で、文部科学大臣が別に定めるところにより指定した我が国の大学に入学するための準備教育を行う課程を修了した者及び2019年3月31日までに修了見込みの者で、かつ、2019年3月31日までに18歳に達するもの</p> <p>(4)外国に所在し外国の教育制度に基づく教育機関において、高等学校に対応する学校の課程（その修了者が当該外国の学校教育における11年以上の課程を修了したとされるものであることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを修了した者及び2019年3月31日までに修了見込みの者</p> <p>(5)スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を外国において取得した者で、2019年3月31日までに18歳に達するもの</p> <p>(6)ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を外国において取得した者で、2019年3月31日までに18歳に達するもの</p> <p>(7)フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を外国において取得した者で、2019年3月31日までに18歳に達するもの</p> <p>(8)グレート・ブリテン及び北部アイルランド連合王国において大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格を外国において取得した者で、2019年3月31日までに18歳に達するもの</p> <p>(9)国際的な評価団体（WASC、CIS、ACSI）から教育活動等に係る認定を受けた外国に所在する教育施設に置かれる12年の課程を修了した者で、2019年3月31日までに18歳に達するもの</p> <p>【要件】</p> <p>次のすべてに該当する者</p> <p>(1)日本国籍を有しない者（日本国の永住許可を得ている者を除く）</p> <p>(2)日本の大学において教育を受ける目的をもって、出願期間中のいずれかの期日を含み日本に入国している者</p> <p>(3)出入国管理及び難民認定法に規定する「留学」の在留資格を有する者又は入学後に取得できる者</p> <p>(4)独立行政法人日本学生支援機構が実施する日本留学試験を受験した者で、出願する学部の指定する【日本留学試験、TOEIC Listening & Reading Test又はTOEFLにおける出願要件】を満たす者</p> <p>(5)TOEIC Listening & Reading Test又はTOEFLのいずれかの成績が、出願する学部の指定する【日本留学試験、TOEIC Listening & Reading Test又はTOEFLにおける出願要件】を満たす者</p>

出 願 資 格	【日本留学試験、TOEIC Listening & Reading Test又はTOEFLにおける出願要件】									
	試験 学部・学科		日 本 留 学 試 験					TOEIC Listening & Reading Test	TOEFL	
			日本語	総合 科目	理科	数 学	得 点 等		摘 要	PBT (ペーパー試験)
	経済学部	経済学科	○	○	×	「コース1」	「日本語」の得点が200点以上 「総合科目」と「数学」の合計得点が240点以上	「総合科目」「数学」の出題言語は、日本語、英語のいずれも可とします。	450点以上	440点以上
システム工学部	システム工学科	○	×	○	「コース2」	「日本語」の得点が200点以上 「数学」と「理科」の合計得点が240点以上	「理科」の選択科目は、物理、化学、生物のうち任意の2科目を選択とします。各科目の出題言語は、日本語、英語のいずれも可とします。	410点以上	390点以上	29点以上
観光学部	観光学科	○	総合科目 又は 理科 のいずれか		「コース1」 又は 「コース2」 のいずれか	各科目の得点が平均点以上	「理科」の選択科目は、物理、化学、生物のうち任意の2科目を選択とします。「総合科目」「理科」「数学」の出題言語は、日本語、英語のいずれも可とします。	450点以上	440点以上	42点以上
	<p>(注1) 日本留学試験の成績を利用できるのは、2018年度の6月実施分又は11月実施分のいずれかの試験結果とします。</p> <p>(注2) TOEIC Listening & Reading Testのスコアは、出願期間最終日よりさかのぼること2年以内に受験した試験結果とします。</p> <p>(注3) TOEFLのスコアは、出願期間最終日よりさかのぼること2年以内に受験した試験結果とします。</p> <p>(注4) 日本留学試験の「日本語」に関して、「記述」の得点は利用しません。</p>									
選 抜 方 法 等	<p>日本留学試験の成績、本学が実施する面接の結果及び出願書類により総合して行います。 なお、面接は日本語で行います。</p> <p>・配点</p>									
			日本留学試験 (2018年6月実施分又は11月実施分のいずれか)				本学が実施する 学力検査等	配点 合計	備 考	
		日本語 (「記述」は除く)	総合 科目	理科	数学	面接 (日本語)				
経済学部	○	○	×	○	○	○	上段の○、※印は配点対象であることを表し、下段の数字は配点を表します。 なお、日本留学試験の科目の選択、※印の「総合科目」と「理科」の選択は、【日本留学試験、TOEIC Listening & Reading Test又はTOEFLにおける出願要件】によります。			
	400	200	—	200	1200	2000				
システム工学部	○	×	○	○	○	○				
	400	—	200	200	800	1600				
観光学部	○	※		○	○	○				
	400	200		200	800	1600				
出 願 期 間	平成31(2019)年1月8日(火)～1月10日(木)									
選 抜 期 日	平成31(2019)年2月15日(金)									
合 格 者 発 表 日	平成31(2019)年3月6日(水)									
そ の 他										

学生募集要項等の発表及び請求方法

1. 学生募集要項等の発表予定時期

学生募集要項等の種別		発表予定時期	備考
入学者選抜要項(本冊子)		6月中旬	——
一般入試学生募集要項(全学部在中)		10月上旬	入学願書付
推薦入試学生募集要項	教育学部	7月下旬	
	システム工学部	7月下旬	
	観光学部	7月下旬	
推薦入試・スポーツ推薦入試学生募集要項	経済学部	7月下旬	
社会人・帰国子女特別入試学生募集要項	経済学部	7月下旬	
社会人特別入試学生募集要項	観光学部	7月下旬	
AO入試学生募集要項	観光学部	配布中	
私費外国人留学生特別入試学生募集要項		6月中旬	

2. 学生募集要項等の請求方法

※Eメールによる請求はできません。

(1)本学ホームページからテレメールを利用して請求する場合

本学ホームページ(<http://www.wakayama-u.ac.jp/admission/>)からテレメールを利用して大学案内及び募集要項等の資料を請求できます。詳細は本学ホームページをご覧ください。

(2)株式会社フロムページの発送サービスで請求する場合

◆テレメールでの請求方法

①インターネット(パソコン・スマホ・携帯電話)又は自動音声応答電話をご利用ください。



インターネット(PC・スマホ・携帯電話)の場合		自動音声応答電話の場合	
http://telemail.jp PC・スマホ・携帯電話 各社共通アドレス		IP電話	050-8601-0101
バーコード バーコードを読み取り、アクセスした場合は 資料請求番号の入力は不要です。			

※IP電話：一般電話回線からの通話料金は日本全国どこからでも3分毎に約12円です。

②資料請求番号(6桁)を入力又はプッシュしてください。

資料名	資料請求番号	料金(予定)	発送開始予定日
大学案内	565842	300円	7月20日頃
入学者選抜要項(本冊子)	585842	180円	6月20日頃
入学者選抜要項(本冊子)+大学案内	565802	300円	7月20日頃
一般入試学生募集要項	585802	300円	10月20日頃
一般入試学生募集要項+大学案内	545902	350円	10月20日頃
推薦入試学生募集要項	※教育学部 585812	215円	7月30日頃

※推薦入試地域(紀南)推薦枠は、本要項には含まれていません。資料請求対象外です。

資 料 名	資料請求番号	料金(予定)	発送開始予定日	
推薦入試学生募集要項	システム工学部	585832	180円	7月30日頃
	観光学部	545932	180円	7月30日頃
推薦入試・スポーツ推薦入試学生募集要項	経済学部	585822	215円	7月20日頃
社会人・帰国子女特別入試学生募集要項	経済学部	545912	215円	7月20日頃
社会人特別入試学生募集要項	観光学部	545942	180円	7月30日頃
AO入試学生募集要項	観光学部	587832	215円	配布中
私費外国人留学生特別入試学生募集要項		545922	180円	6月20日頃

※料金はお届けした資料に同封されている支払方法に従ってお支払いください。
(支払いに際して手数料が別途必要になります。)

※発送開始日以前に請求された資料は予約受付となり、発送開始日になりましたら一斉に発送されます。その際は、発送開始日から1～2日程で資料が届きます。

※発送開始日以降に請求された資料は請求してから1～2日程で届きます。ただし、受付日時や地域、配達事情によっては、3日以上かかる場合もあります(お届けまでの日数は請求日の翌日を起算とします)。なお、1週間以上経っても届かない場合は、テレメールカスタマーセンターへお問い合わせください。

(2)の請求方法への問合せ先：IP電話 050-8601-0102 (9:30~18:00)

(3)大学情報センター株式会社の発送サービスで請求する場合

◆「モバっちょ」での請求方法

携帯電話・スマホ・パソコンから請求できます。

【URL】 <http://djc-mb.jp/wakayama-u3/>

「モバっちょ」



資 料 名	発送開始予定日	料金(予定)
大学案内	7月20日	250円
入学者選抜要項+大学案内	7月20日	350円
一般入試学生募集要項	10月下旬予定	250円
一般入試学生募集要項+大学案内	10月下旬予定	350円

(料金の支払い方法)

パソコンから請求した場合は、クレジット払い、コンビニ後払いから選択してください。

①請求時払い：携帯払い、スマホ払い、クレジットカード払いができます。別途手数料50円が必要です。

※携帯電話・スマホの機種、携帯電話会社との契約状況により、通話料金と一緒に支払いできない場合があります。その場合、コンビニ後払いを選択してください。

- ②コンビニ後払い：資料到着後、コンビニでお支払いください。別途手数料126円が必要です。

(3)の請求方法への問合せ先：モバっちょカスタマーセンター

TEL 050-3540-5005(平日 10:00~18:00)

(3)本学へ直接来学し入手する場合

配 布 場 所	配 布 時 間
和歌山大学入試課(南1号館3階)	平日の午前9:00~17:00
南1号館玄関ホール(和歌山大学バス停前)	平日の上記配布時間帯以外及び土日祝日でも配布しています。

学部の紹介

1. 教育学部

教育学部は、その前身を明治期に発足した師範学校におく、本学でもっとも古い歴史をもった学部です。昭和24年（1949年）新制和歌山大学では学芸学部、その後、教育学部と学部名称は変わりますが、その間一貫して教員養成を通じて地域社会に大きな貢献をしてきました。

平成元年（1989年）に教員養成以外にも視野を広げた、教員免許状取得を目的としない新課程を設置し、組織や名称を変更しながら今日まで継承してきましたが、平成27年（2015年）入学者をもって終了し、学校教育教員養成課程に一本化しました。これは、少子化や学力低下、いじめや不登校など、深刻化し、複雑化していく諸問題に対応するため、教員養成に学部の力を集約させることを狙った改革です。これまで新課程が担った、学校の外への視点や幅広い教養を教員養成課程に取り込みつつ、これらの問題解決にあたることを考えています。

この課程には初等教育コース、中等教育コース、特別支援教育コースの3つのコースをおきます。このようにキャリアパスを明確にすることで、自分のめざすべき進路にまっすぐに向かうことができるようにしました。もっとも、それぞれのコースは相互に関連しているので、それらをつなぐ視点も大切にしています。具体的には小・中連携を中心に特別支援教育や幼児教育とつなぎます。

本学部が力を入れていることの一つに、実践力の向上があります。これは単に「即戦力の養成」というのとは少し違います。実際、多様な学校現場ですぐに役に立つ人材になるのは至難です。大切なことは、困難な教育現場にあって、日々悩みながら同僚たちと協働して子どもの支援に向かう覚悟と姿勢を準備することです。

そのためには、自主的で多様な教育経験が必要になります。教育実習はその最大のものですが、それ以外にへき地・複式教育実習のようなオプションの実習、経験豊かな現場教員の授業、さらには教育ボランティアや教育系のサークルなど課外の活動も多く用意されています。これらを通じて、悩みながら成長し続ける教員になっていけるよう支援しています。

初等教育コース

このコースは児童の発達や教科のつながりなどを総合的に捉え、小中連携の視野を持った小学校教員の養成をめざします。子どもと教育に関する専門的な知識と技能を修得するとともに、教育に関するさまざまな科学・研究分野を学びます。さらに、学校教育の基本的課題のみならず今日の学校内外で多発する複雑で深刻な教育問題に対応できる、総合的で実践的な教育的力量を身につけます。

このコースでは初等（小学校）の専門性を高めるために「初等教育エキスパート科目」を設定し、教職分野の力や小学校教科の指導法及び教科内容の力をつけます。また小中連携を意識した「小中連携科目」の履修により校種間のつながりを意識した学びができます。このコースでは卒業要件として、〔小学校教員免許1種〕の取得が課せられます。本人の希望により幼稚園教員免許や中学校教員免許、高等学校教員免許、特別支援学校教員免許の取得が可能です。卒業後の進路としては、小学校を中心として、幼・中・高・特別支援学校の教員のほかに、心理職、児童施設指導員、障害者施設指導員、公務員、大学院進学などがあります。

中等教育コース

教科（分野）の専門性を深めつつ、中学校・高等学校教員の養成をめざします。子どもと教育に関する専門的な知識と技能を修得するとともに、学校における各教科に関する幅広く深い知識と専門的技量を修得します。さらに、文化の継承・発展という教育の基本的課題に対応できる、総合的で実践的な教育的力量を身につけます。

このコースでは教科の専門性を高めるために「中等教育エキスパート科目」を設定し、教職分野の力や中学校・高等学校教科の指導法及び教科内容の力をつけます。このコースでは卒業要件として、〔中学校教員免許1種〕の取得が課せられます。本人の希望により小学校教員免許、高等学校教員免許、特別支援学校教員免許の取得が可能です。卒業後の進路としては、中学校・高等学校を中心として、小・特別支援学校の教員のほかに、諸種の教育関係職、公務員、大学院進学などがあります。

特別支援教育コース

このコースでは、特別支援教育に関する専門的な知識と技能を修得します。通常の教師としての資質を高めながら、学習や発達に困難のある児童生徒や、心身に障害を有する児童生徒など、教育上特別なニーズを有する子どもの指導、支援に関する高度な専門性を身につけることが目標です。

授業では、特別支援教育に関する教育学、心理学、指導法、医療、福祉について、系統的な知識や技術を学ぶとともに、教育の時代的な変化の背景にある思潮や、教育の原理、歴史についても学習し、表面的スキルの修得に終わらない深い学びを目指します。さらに子どもと接する機会を多く設け、体験を通して学ぶことができる授業を展開しています。

このコースの卒業要件として、〔小学校教員免許1種〕又は〔中学校教員免許1種〕の取得に加えて、〔特別支援学校教員免許1種〕を取得することになります。

卒業後の進路は、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教員のほかに、福祉施設職員、公務員、一般企業、大学院進学などがあります。

2. 経済学部

本学部は、1922年（大正11年）に創立された旧制和歌山高等商業学校以来の伝統を受け継ぎ、100年近くにわたって社会に多くの優れた人材を送り出してきました。この間、時代と社会の要請にこたえながら、経済社会の理解に不可欠な学問分野である経済学、経営学、会計学、情報学、法学の教員を揃え、論理的思考力、専門知識、実務能力、幅広い教養を有する人材の養成に努めてきました。卒業後の進路は、金融・製造・流通・情報・公務など多様な業種にわたり、昨今の厳しい就職状況下でも就職率は高い水準を保っています。また、本学大学院経済学研究科修士課程に進学する学生もいます。優秀な成績を修めた学生は、3年次修了時点で大学院に進学できる制度が設けられています。

近年の多様化・複雑化する社会においては、複数の学問分野にまたがる専門知識を活用し、一人ひとりが他の人と協力しながら問題を発見・解決する能力が求められています。そのような能力・資質を身につけるために、本学部のカリキュラムは、経済学、経営学、会計学、情報学、法学の各学問領域での体系的な学修に加え、これらのうちのいくつかの学問領域の学修を組み合わせています。

す。その上で、卒業後の進路において必要となる専門知識や実務能力などを考慮して横断的な学問領域における授業科目を体系化しています。学生は初年次から将来の自分の姿を思い描きながら主体的・計画的に学修を進めます。このカリキュラムでは、学修目標とそれによって目指せる可能性のある代表的な進路を想定し、次の「プログラム」を設けています。

「グローバル・ビジネス&エコノミー」

グローバルな視点から経済領域・経営領域で種々の課題に対応できる能力を身に付け、グローバル企業、国際機関、NPO・NGOなどにおいて中心的な役割を担える人材となることを目指します。

「企業分析・評価」

企業の資金調達・運用から事業譲渡など、銀行の融資審査や証券会社の引受、会計事務所のコンサルティング業務、一般企業のファイナンス関連業務などで企業価値の分析及び評価を行うことができる人材となることを目指します。

「ビジネスデザイン」

新たな視点から事業、企業の再活性化に取り組める能力を身に付け、企業の企画部門などにおいて、高い企画力を持って組織変革や業務改善を担える人材や、起業家などを目指します。

「企業会計・税法」

会計学及び税法の視点からの実務能力を身に付け、企業の経理・財務部門において、会計・法制度の知識をもとに組織活性化の支援に取り組む人材や、税理士、公認会計士、不動産鑑定士、国家・地方公務員などを目指します。

「地域公共政策・公益事業」

地域社会における課題解決能力を身に付け、地域の活性化を支援する国家・地方公務員や、公益性の高い事業主体の職員などを目指します。

「サステイナブル・エコノミー」

経済における持続可能性を実現できる多様性・柔軟性を有する能力を身に付け、企業のCSR関連部門、社会的企業、環境NGO・NPOなどにおいて、多様な利害関係者と各組織の橋渡しとなれる人材となることを目指します。

3. システム工学部

システム工学部システム工学科の特徴

近年、科学技術の急速な発展に伴い、さまざまな工業技術が高度化・専門化してきました。また、一方で、エネルギー、環境、情報のようにグローバルに変化する課題から地域の産業の再生や振興といった課題にも対処することが要求されるようになってきました。前者は各専門分野の分化、後者は専門分野の統合・総合化を示唆しています。

このような状況の下にある産業界や社会の要請により柔軟に対応できるよう、システム工学部で

は平成27年、これまでの5学科（情報通信システム学科、光メカトロニクス学科、精密物質学科、環境システム学科、デザイン情報学科）を1学科（システム工学科）へと改組を行いました。システム工学科には、10教育研究領域（メジャー）を設定し、学生自らが将来を志向し、自らの興味や資質に見合った領域を主体的に選択することができます。具体的には、2つのメジャーを選択することによってコースを構成し、学科に相当する専門分野を学ぶことができます。これによりこれまでの学科の枠組みに固執することなく、広範かつ柔軟な専門性をもった応用力・適用力が養われることが期待されます。以下に、各メジャーの教育目的とともにいくつかのコースを示します。

• **メジャー：機械電子制御**

機械電子制御メジャーでは、幅広い視点から論理的思考をもって問題の解決にあたることのできる技術者をめざして、機械工学、応用数学などの素養を身につけた後、制御工学、ロボット工学などのシステム論を用いた設計、運用に関する専門技術について学びます。

• **メジャー：電子計測**

電子計測メジャーでは、人々の生活や産業を支える情報のセンシングや処理システムを創造できる技術者の育成をめざして、電気電子工学や光工学の基礎と、計測デバイスや計測情報処理などの要素技術、さらにこれらを統合した計測システムについて学びます。

• **メジャー：応用物理学**

応用物理学メジャーでは、物質におけるナノスケールの世界を探求し、新しい材料やデバイスの開発に対する社会のニーズに柔軟に対応できる能力を身につけられるように、物性物理学、材料科学、電子工学にわたる専門分野を学びます。

• **メジャー：化学**

化学メジャーでは、化学に関わる基本的法則を学んで物質に関する理解の基盤を作った後、ナノレベルの世界における化学現象や法則、原子・電子レベルでの相互作用の発現や、新たな機能性物質の設計・開発などの専門技術について学びます。

• **メジャー：知能情報学**

知能情報学メジャーでは、人間とコンピュータの新たな関係が再構築される時代において、科学者や技術者として活躍できる人材を育成するための専門教育を行い、人工知能やロボット、視覚情報処理、コンピュータグラフィクスなどについて学びます。

• **メジャー：ネットワーク情報学**

ネットワーク情報学メジャーでは、インターネット上に構築される、新たな情報ネットワーク社会において、科学者や技術者として活躍できる人材を育成するための専門教育を行い、モバイル通信やWebシステム、ビッグデータの解析などについて学びます。

• **メジャー：環境科学**

環境科学メジャーでは、環境を守り、育て、次世代に継承する人材の育成をめざして、環境破

壊を未然に防ぐ、自然災害から命や暮らしを守る、地球温暖化に対応する、美しい風景を創造するなど、持続可能な社会の実現に貢献するための知識と技能を学びます。

• **メジャー：環境デザイン**

環境デザインメジャーでは、人と自然のよりよい関係を具現化できる人材の育成をめざして、自然から生活空間にいたる環境を一体として捉え、自然再生、防災緑化、自然エネルギーなど自然と調和する技術、景観保全やまちづくり、建築設計などの計画技術について学びます。

• **メジャー：メディアデザイン**

メディアデザインメジャーでは、メディアデザインと情報の双方の知識を持つ人材の育成をめざして、情報技術としてのサウンドやビジュアルのデザイン、人間工学に基づくインタフェースデザイン、さらにその基礎となるデザイン制作や企画方法について学びます。

• **メジャー：社会情報学**

社会情報学メジャーでは、人や社会を豊かにする情報システムを企画・設計する能力を身につけます。情報技術に支えられた社会の仕組みを知り、新しい情報システムの可能性を探索するために、ソフトウェア開発や高度なコミュニケーションについて学びます。

代表的なコースとそれを構成するメジャー、期待される就職先

コース名	メジャー名	期待される就職先
ロボティクス	機械電子制御 電子計測	機械・電機、自動車、精密機械
ナノテクノロジー	応用物理学 化学	半導体・電子部品、精密機器、 化学・医薬品・化粧品、素材
コンピュータサイエンス	知能情報学 ネットワーク情報学	情報・通信、ITサービス、電機
デザインシステム	社会情報学 メディアデザイン	情報・通信、ITサービス、出版・印刷
環境システム	環境デザイン 環境科学	公務員（土木、建築、造園）、建築・住宅、 環境プラント
環境化学	環境科学 化学	環境職公務員、環境測量士
電気電子工学	応用物理学 電子計測	電気電子メーカー、精密機械
知能機械システム	機械電子制御 知能情報学	自動車、電機、精密機械、生産機械、医療機器、 情報通信産業、ゲーム・アミューズメント
ネットワーク社会システム	ネットワーク情報学 社会情報学	情報通信、サービス産業、 ゲーム・アミューズメント

○システム工学部では、スーパーサイエンスティーチャープログラムを設けます。これはシステム工学部卒業後、本学教育学研究科に進学し理科の教員免許の取得を目指すコースです。

4 . 観光学部

21世紀は「観光の時代」。世界のあらゆる国や地域で最も有望な成長分野として注目されるのが観光です。日本においても観光は戦略産業と位置づけられ、官民一体での「観光立国」実現に向けた政策や取組が加速するなか、観光産業や行政の現場と密接に連携しながら、新しい観光学の創造及び観光を支えるに相応しい豊かな教養と専門性、さらにはグローバル時代に対応したハイレベルな国際的・学際的視点を有する観光人材の輩出がますます期待されています。和歌山大学観光学部は、観光教育研究における日本の、そしてアジアの拠点として、これらの人材養成に応えるべくさらに進化します。

観光学部の特色

- ①観光学は人間の生活・文化に関わるあらゆる分野を総合した学問であることから、人文・社会科学から自然科学までの幅広い分野を融合的・横断的に学ぶことのできる充実したカリキュラムを用意しています。
- ②最先端の観光理論を学ぶことはもちろん、教員と学生が自治体と連携して地域課題の解決に取り組むプログラムや海外の連携大学等と共同で取り組むエリアスタディ等の機会を通じて、社会の各方面から即戦力として期待される実践力が身につきます。
- ③ハイレベルな観光人材に相応しい教養の醸成を重視し「観光プロデュース論」「日本文化演習」などユニークな実践科目を配置するほか、グローバル・プログラムの導入を通じて国際化時代における言語面でのバリアフリー化を進めます。

入試に関する問合せ先

和歌山大学

《一般入試照会先》

入試課

〒640-8510 和歌山市栄谷930

TEL 073-457-7117

《特別入試及び学部照会先》

- | | | |
|-----------|----------|------------------|
| 【教育学部】 | 学務課学務第一係 | TEL 073-457-7219 |
| 【経済学部】 | 学務課学務第二係 | TEL 073-457-7805 |
| 【システム工学部】 | 学務課学務第三係 | TEL 073-457-8021 |
| 【観光学部】 | 学務課学務第四係 | TEL 073-457-8542 |

〈注意〉

- ・ 入学者選抜に関する全ての事項は、志願者本人がこの選抜要項及び各学生募集要項を熟読することによって、必ず本人の責任で確認してください。
- ・ この入学者選抜要項以外に重要な通知がある場合は、本学ホームページの「入試情報」(<http://www.wakayama-u.ac.jp/admission/>)でお知らせします。
- ・ 電話での照会は、祝日及び年末年始(12月29日～1月3日)を除く、月～金曜日の9時から17時(12時から13時は除く)に、この選抜要項及び各学生募集要項を手元に置き、必ず志願者本人が行ってください。